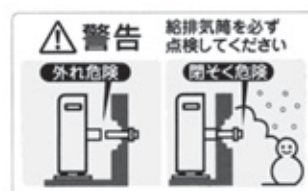
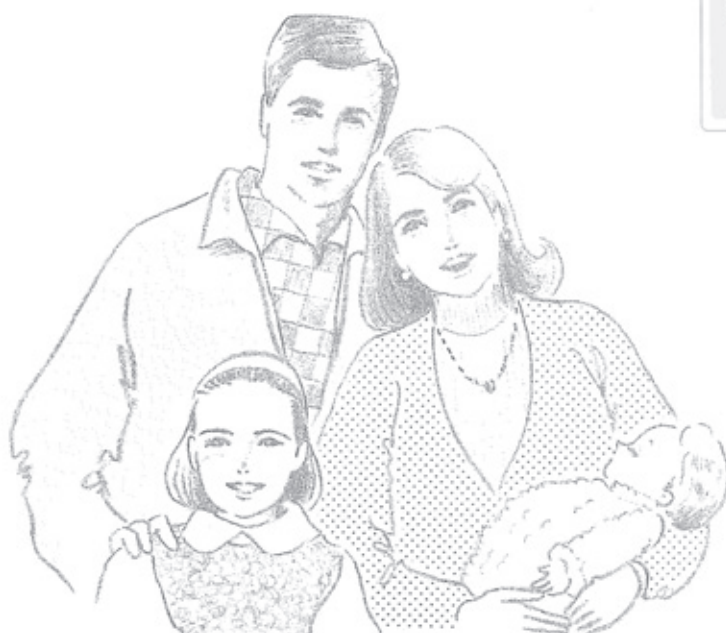
SUNPOT

サンポット石油床暖房機
（密閉式石油ストーブ）

取扱説明書

型名
UFH-701SX

⚠警告 給排気筒を必ず点検してください
外れ危険
閉そく危険

- このたびはサンポット石油床暖房機をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよく読んで、ストーブを家族全員で正しくご使用ください。
  なお、この取扱説明書は、保証書・工事説明書と共に必ず保存してください。

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

- 商品には保証書を添付しております。
  保証書はよりよい製品作りやアフターサービスの向上に役立たせていただきますので、お手数ですが所定事項のご記入をご確認のうえ、必ず保証書控えをお買いあげの販売店にお渡しください。

サンポット株式会社

お使いになる前に 1～14
使いかた 15～25
お手入れ・その他 26～42
工事編 43～60

上手に使って もっと便利に！

おめざめタイマー（21 ページ）
お目覚めの時刻に、また来客時などあらかじめお部屋を暖めておきたいときにご使用ください。

クイック微少（19 ページ）
微少燃焼がスイッチを 1 回押すだけで設定できます。

ひかえめ運転（20 ページ）
春先や秋口など微少燃焼をつづけていても部屋の温度があがりすぎてしまうときご使用ください。

暖房切替え自在（19 ページ）
ストーブ運転←→床暖運転の切替えがワンタッチ操作で行えます。

給水サイン（23 ページ）
万一蒸発などで不凍液が減少してもお知らせ音とランプの点滅により、給水時期をお知らせします。

運転スイッチ「入」
運転開始（15 ページ）
（点火）

運転スイッチ「切」
運転停止（15 ページ）
（消火）

もくじ

安全のために必ずお守りください

■ここに示した事項は、　警告 ⚠注意　に区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■イラスト（まんがなど）の横にある記号は次のことを表しています。

🛇	禁止（してはいけないこと）を表しています。
❗	指示（必ず実施していただくこと）を表しています。
⚠	注意（気をつける必要があること）を表しています。

⚠警告（WARNING）

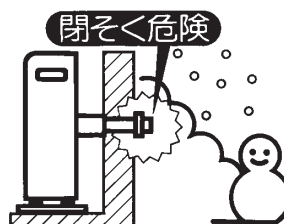
1. ガソリン厳禁

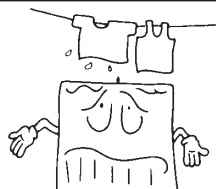
●ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

2. 給排気筒(管、ホース)外れ危険

●給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

3. 給排気筒トップ閉そく危険

●給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

4. 衣類の乾燥厳禁

●衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

5. 温風吹出口をふさがない

● 衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。

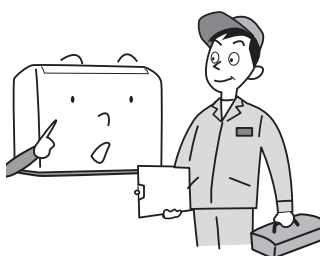
6. スプレー缶厳禁

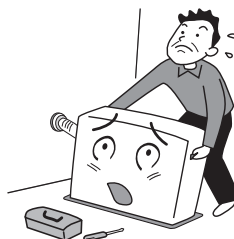
● スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に（周囲に）放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

7. 低温やけどに注意

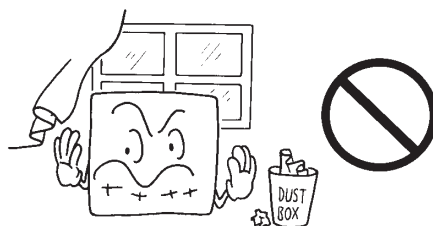
● 長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度（40 ～ 60℃）でも低温やけどや脱水症状の原因になります。

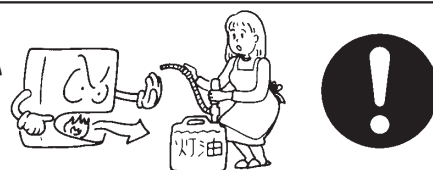
8. 定期点検の実施

● 定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。
点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

9. ご自身での据付け・移設工事の厳禁

● お客さまご自身による工事は危険です。
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

⚠注意 (CAUTION)

1. カーテン、可燃物近接禁止

●カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例（39ページ）を照してください。

2. 給油時消火

●火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

3. 異常時使用禁止

●万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

4. 変質灯油禁止

●変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（汚れた灯油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

5. 温風に直接あたらない

●温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

6. 高温部接触禁止

●燃焼中や消火直後は、高温部（前ガードなど）、排気筒（給排気筒トップ）に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

7. 指や異物を入れない

●ガード内や空気取入口などに指や異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。

8. 腰をかけたり物をのせない

- ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。
  ストーブの故障ややけどのおそれがあります。
- ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。
  水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

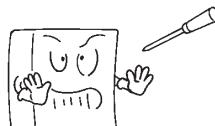
9. カーペットのはがれに注意

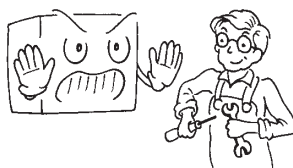
- カーペットがずれたり、めくれたまま使用しないでください。
  床パネルに直接触れると、やけどのおそれがあります。

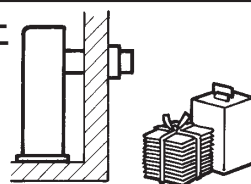
10. 循環液(不凍液・補充液)の保管に注意

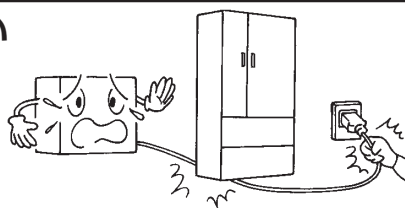
- 循環液（不凍液・補充液）は幼児の手の届かない所に保管してください。
  万一、飲んだ場合にはすぐに吐かせて、医師の診断を受けてください。

11. 分解修理の禁止

- 故障、破損したら、使用しないでください。
  不完全な修理は、危険です。

12. 改造使用の禁止

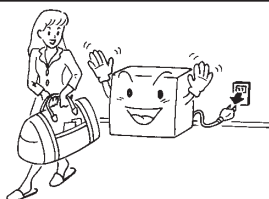
- 改造して使用しないでください。また、ストーブや排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
  火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

13. 給排気筒付近の可燃物近接禁止

- 給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
  火災のおそれがあります。

14. 電源コードを傷めない

- 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
  また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
  火災や感電の原因になります。

15. 電源プラグは確実に差し込む

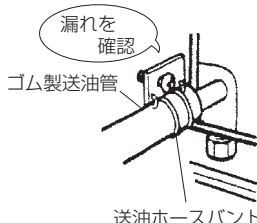
- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）
火災の原因になります。
- ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

16. 長期間使用しないときは電源プラグを抜く

- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

17. 電源プラグのお手入れをする

- ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
（ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

18. 油漏れ確認

- 油タンク・ゴム製送油管・接続部およびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。
灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

お願い（NOTICE）

1. 灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2. ストーブは居室用につくられておりますので衣類乾燥室、植物の温室、ペット等の飼育室などでは絶対に使用しないでください。

使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

場所の選定は「据付け場所の選定及び標準据付け例」の項をお読みください。
（39 ページ参照）

■次の場所では使用しないでください。
火災や予想しない事故の原因になります。

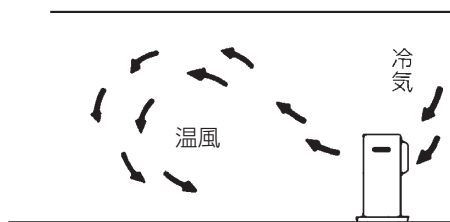
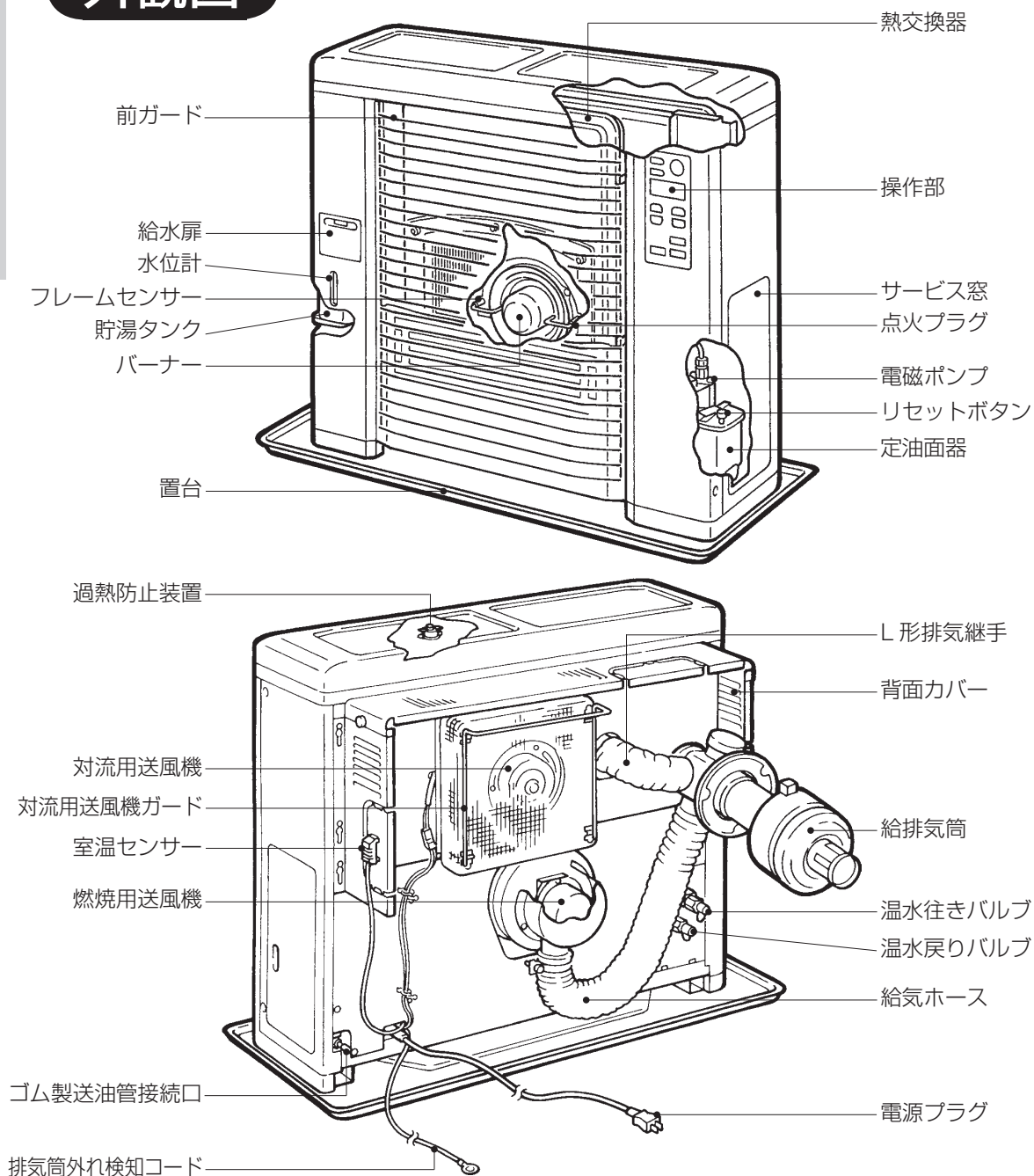
⑴ 水平でない場所、不安定な場所
⑵ 不安定な物をのせた棚などの下
⑶ 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
⑷ 付近に燃えやすいものがある場所
⑸ 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
⑹ 温室、飼育室など人のいない場所
⑺ 標高 1,200m 以上の高地

効果的に使用するために

- 冷たい外気に接する窓ぎわや壁側に据付けると、冷気が暖められて対流しますので効果的です。
- ストーブの前方に障害物があると、部屋の温度にむらができる原因になります。

各部のなまえ

外観図

熱交換器
前ガード
操作部
給水扉
水位計
フレームセンサー
貯湯タンク
バーナー
サービス窓
点火プラグ
電磁ポンプ
リセットボタン
定油面器
置台
過熱防止装置
L 形排気継手
背面カバー
対流用送風機
対流用送風機ガード
室温センサー
燃焼用送風機
給排気筒
温水往きバルブ
温水戻りバルブ
給気ホース
ゴム製送油管接続口
電源プラグ
排気筒外れ検知コード

表示部・操作部のなまえとはたらき

操作パネル

ひかえめランプ（レッド）
- ひかえめ運転中に点灯します。

ひかえめ運転スイッチ(20ページ参照)
- 押すとひかえめ運転します。
- もう一度押すと解除されます。

微少ランプ（レッド）
- 微少スイッチを押すと点灯します。

微少スイッチ（19ページ参照）
- 押すと微少燃焼になります。
- もう一度押すともとの燃焼になります。

手動ランプ（レッド）
- 手動運転中に点灯します。

床暖ランプ（グリーン）
- 床暖房運転中に点灯します。

床暖スイッチ
- 押すと床暖房運転とストーブ運転を選べます。

設定スイッチ（17ページ参照）
- このつまみで室温（または火力）の設定と床暖水温の設定、および時刻の設定ができます。
- デジタル表示内容によって左右のスイッチの機能が変わります。

（温度表示ランプ点灯中）
- 右のスイッチで設定室温、火力の上げ下げが行えます。「12」～「32」℃またはLo、P1、P2……Hiの範囲内で選んでください。
- 左のスイッチは床暖房時に設定水温の上げ下げが行えます。「40」～「60」℃の範囲内で選んでください。

（タイマー設定ランプ点灯中）
（時計合わせランプ点灯中）
左のスイッチは「時間」を設定し、右のスイッチは「分」を設定します。⏶スイッチを1回押すごとに1時間（1分間）づつ進みます。押しつづけると連続して進みます。（⏷スイッチで遅らせることもできます。）

運転ランプ（レッド）

- 運転中に点灯します。

運転スイッチ（15ページ参照）

- 押すと運転（点火）します。
- もう一度押すと消火します。

デジタル表示部

- 操作切替スイッチを押すことにより表示内容が変わります。
- 通常運転時は、温度または時刻を表示します。

（温度表示点灯）
- 右は現在室温または火力を表示します。
- 左は現在水温を表示します。

（時計合わせ点灯）
時刻を表示します。

（タイマー設定点灯）
時刻を表示します。

- 異常時は異常内容をモニター表示します。

操作切替スイッチ（20ページ参照）

- デジタル表示の切替えをします。
- 「温度表示」→「タイマー設定」→「時計合わせ」と表示モードを切替えます。

タイマースイッチ（21ページ参照）

- 押すとタイマー点火予約になります。
- もう一度押すと解除されます。

タイマーランプ（グリーン）

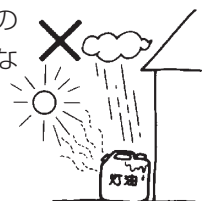
- タイマー点火予約中に点灯します。

使用前の準備

燃料

- **燃料は、灯油(JIS1 号灯油)を必ず使用してください。**
- 変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。
  灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。
- 不透明な容器に入れて保管してください。
- 灯油専用の容器を使用してください。
  ガソリンなどといっしょに保管しないでください。

悪い保管

直射日光、雨水の当たるベランダなどでの保管。

変質灯油・不純灯油とは

変質灯油

特に変質のひどいものは、黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。

- 古い灯油（ひと夏持ち越した灯油）
- 長期間日あたりがよい場所に保管した灯油。
- 長期間温度が高い場所に保管した灯油。
- 特に容器のふたがあけてあったり、白いポリ容器で保管した灯油。

不純灯油

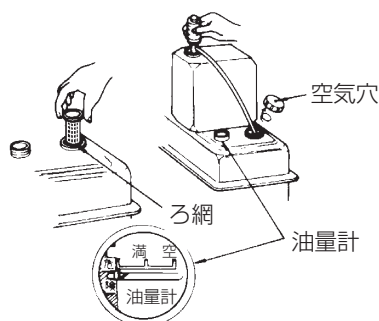
- 灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。
- 水や、ごみが混入した灯油。
- 燃料節約剤や防臭剤などの灯油添加剤が混入した灯油。

変質灯油や不純灯油を使用すると	処置のしかた
不良灯油（変質灯油・不純灯油）を使用しますと、気化器内にタールがたまり、着火ミス、異常燃焼や、途中消火など、故障の原因となります。	サービスを依頼してください。
水の混入した灯油を使用すると灯油が流れなくなったり、途中で消火したりして燃焼しません。	サービスを依頼してください。
ガソリン、シンナーなど揮発性の高いものを使うと火災の原因になります。	サービスを依頼してください。

注意：変質灯油や不純灯油による故障は、保証期間内でも修理代をご負担いただくことになります。

給油のしかた

給油の際の手順と注意

- 給油口のろ網は必ず使用してください。
- 給油ポンプを使用して給油し、油量計が「満」になったらやめてください。
- 給油口ふたは確実にしめてください。
- 給油口の空気穴はふさがないでください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクは空にしないように注意してください。油タンク内の油がなくなってから給油しますと、送油経路内に空気が入り正常に送油ができなくなることがあります。このような場合は次の手順で空気抜きをしてください。

1. 油タンクに給油します。
2. 送油コックを閉じます。
3. 油を受ける容器を用意します。
   ストーブのゴム製送油管接続口からゴム製送油管をはずし、容器で受けます。
4. 送油コックを開きます。
5. ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確認してから、ゴム製送油管を元通りストーブに取付けます。

また、油切れおよび途中消火の発生する原因として次のような場合も考えられます。

①配管の不備。
②ゴムホースの折れによる油供給の不具合。

①・②が原因と思われる場合には、お買い求めの販売店等にご相談ください。

メモ

- **油切れを起こした時や給油後の点火の際、一時的に大きく赤い炎が出ますが空気が入っていたためで異常ではありません。**

点火前の準備と確認

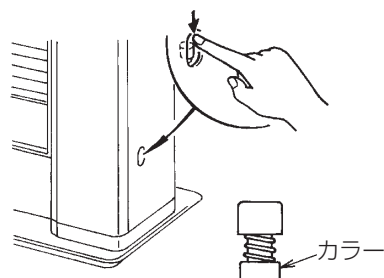
1. 設置場所の確認

水平で丈夫な床面に設置してください。

水平でないと不完全燃焼したり、安全装置が動作して点火しないことがあります。

2. 定油面器のリセット

定油面器のリセットボタンを軽く２～３回押し下げてください。手を離すと元の位置に戻ります。

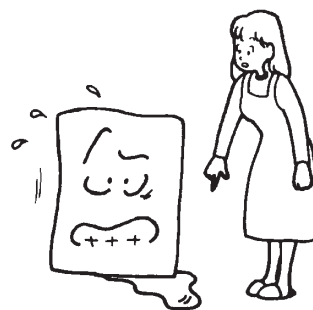
（リセットボタンは据付け時やシーズン初めに操作すれば通常使用では再操作の必要はありません。）

注　意

- **リセットボタンは５秒以上押したままの状態にしたり、何回も押し下げたり、乱暴に扱わないでください。又カラーをはずして押さないでください。油漏れや赤火など異常燃焼の原因となります。**

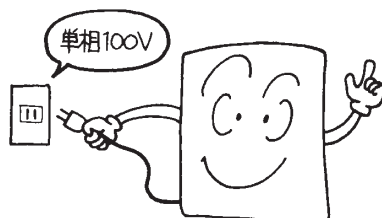
3. 油漏れの確認

油タンクおよびストーブ各部に油漏れのないことを確認してください。

注　意

- **万一油漏れのときは点火操作せず、お買い上げの販売店にご相談ください。**

4. 電　源

電源プラグは必ず正しく配線されたコンセント（単相 100V）に確実に差込んでください。同一屋内配線回路内でたこ足配線、同時に２台や電気ドライヤ、電子レンジなど消費電力の大きい商品と一緒の使用は避けてください。ブレーカーが落ちる可能性があります。

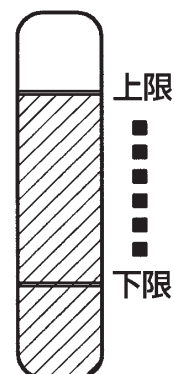
電源コードを排気筒に巻きつけたり、排気筒などの高温部に触れないように注意してください。

5. 温水経路の確認（水漏れおよびバルブ開度）

- 本体および床パネルの温水配管接続部から水漏れしていないことを確認してください。
- 温水配管中のバルブが開いていることを確認してください。

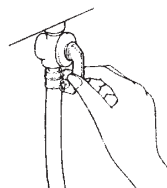
6. 循環水の水位確認

- 製品正面の水位計で、水位が上限にあることを確認してください。
  不足している場合には、温水暖房用補充液を給水してください。給水方法は 41 ページの「床パネルへの給水とエアー抜きのしかた」を参照してください。
  循環ポンプが運転すると、若干水位が下がりますが循環ポンプの停止後は水位は戻ります。
  水位の確認は循環ポンプが停止した状態で行ってください。

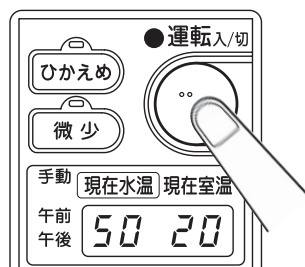
お使いになる前に

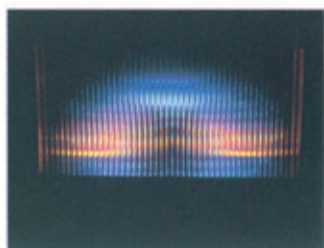
使いかた

点火・消火のしかた

■点火順序

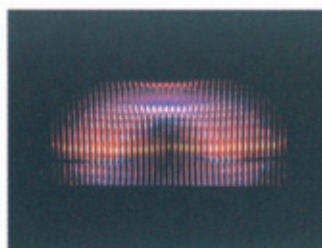
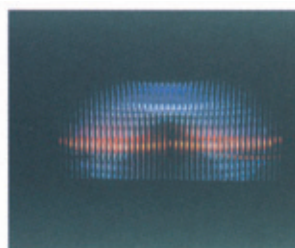
①油タンクのコックレバーを開く。

②運転スイッチを押して「入」にする。

運転ランプが点灯し、デジタル表示部に「現在水温」及び「現在室温」（または火力）が表示されます。

自動的に予熱を開始し、約100秒で着火しその後、約1分で設定された燃焼になります。

■炎の状態

大燃焼

大燃焼時の炎の状態です。

- 燃焼中赤い横線が見えますが点火プラグとフレームセンサーが赤熱しているためで異常ではありません。
- 点火後しばらく黄色みがかった炎やピンク色の炎の混じることがあります。空気中のほこり等によるものです。また燃焼中瞬間的に赤い炎が出ることがありますが、油配管中の空気によるもので異常ではありません。

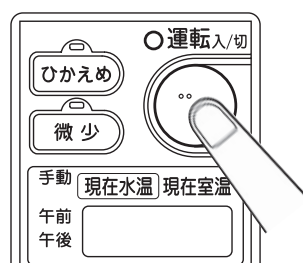
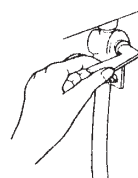
赤紫色の炎
微少燃焼

青い炎
微少燃焼

微少燃焼時は条件により変化します。
左側は空気量の割合が多めの時、バーナーが一部赤熱するため赤紫色の炎になります。耐熱材料を使用しているため、性能品質には異常ありません。
右側は空気量の割合が少なめの時、青い炎となります。

メモ

- 電源プラグを差し込んで初めて使用するときは全てのランプが点滅する状態となっています。このときは運転スイッチを「切」にしてから、再度運転スイッチを「入」にしてください。ここで初めて点火となります。
- 初めて使用するとき赤い大きな火がガラス越しに映りますが、送油管内の空気が抜ける現象ですので異常ではありません。
- 運転操作をして、１回で点火しない場合があります。この場合自動的に点火を３回繰り返します。それでも点火しない場合、「E－01」が表示されます。灯油コック、リセットボタンを確認後、再度運転操作を行ってください。
- 点火時に「ジー」という音が出ます。これは点火のスパークの音で異常ではありません。
- ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎が微妙な変化をします。青い炎の中に多少の黄色い炎が混じっても異常ではありません。

■消火順序

①運転スイッチを押して「切」にする。

運転ランプが消灯し消火します。消火中は「現在水温」及び「現在室温」（または火力）は消灯します。
燃焼用送風機は燃焼室が冷えると自動的に停止します。

②油タンクのコックレバーを閉じます。

【注意】
- 外出するときは、必ず消火してください。
- 長期間留守にするときは、必ず電源を切ってください。（電源プラグを抜く）

使いかた

室温調節のしかた

■自動運転の場合

（室温センサーで室温を検知し、自動的に設定室温に保つように燃焼します。）

あらかじめ 20℃にセットされています。お好みの温度に変えるとき室温スイッチで調節します。12 ～ 32℃の室温設定ができます。

①「室温」の表示部を見ながら室温スイッチでお好みの温度に設定してください。

- お好みの温度が点滅し、セットは完了です。点滅のあとは現在室温が表示されます。

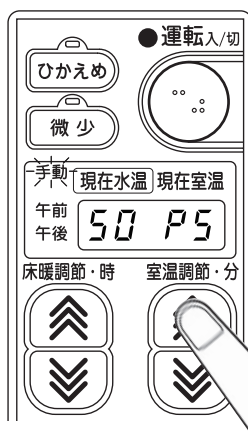
メモ

- **「現在室温」はストーブ背面の室温センサー部の温度で、部屋の温度計とは必ずしも一致しません。また室温の変化時に数字が(22 ⇔ 23)のように行き来する場合がありますが異常ではありません。**
- **外気温が高いときや部屋が狭い場合、お好みの温度より室温が上がることがあります。このときは、ひかえめ運転の設定をされると使い勝手が良くなります。(20ページ参照)**
- **設置の状況により実際の室温と表示温度が一致しない場合があります。この様なときは、製品背面にある室温センサーを取り外し、付近の壁などに移動し、附属のねじで固定してください。**

■手動運転の場合

自動運転よりも手動運転で火力調節を行いたいとき切替えを行ってください。

①表示部の「室温」を見ながら、室温調節の（︽）スイッチを押し続けてください。

- 温度の数字「29」「30」……の表示が「Lo」「P1」「P2」……という表示になります。
  手動になると手動ランプ（赤色）が点灯します。
- 火力は 11 段階で調節できます。「Lo」が微少「P 1 ～ P4」が小、「P5」～「P9」が中、「H i」が大という目安です。
- 「Lo」「P1」「P2」……「P9」「H i」などのお好みの火力が点滅し、セットは完了です。
  点滅のあとは現在室温が表示されます。

※手動運転から自動運転に戻す場合は室温調節の（︾）スイッチを押し続けてください。温度表示に戻り、手動ランプが消灯し、自動運転となります。

【注意】

- **運転中「コトコト」音がすることがありますが、電磁ポンプの運転音で異常ではありません。**
- **現在室温表示は 5℃未満の場合は「Lo」、35℃以上の場合は「Hi」を表示します。**
- **火力を大きく切替える際に、「ブーン」と音がすることがありますが、モーターの運転音で異常ではありません。**

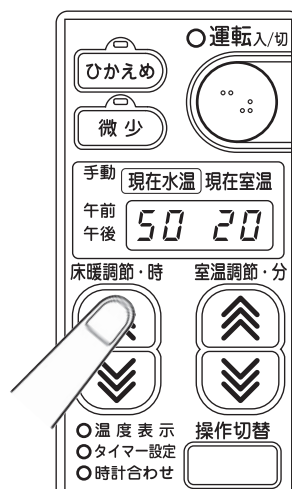
床暖温度の調節のしかた

■床暖温度の調節のしかた

水温センサーで現在水温を感知し、自動的に設定温度を保ちます。

- 床暖房運転は、床パネルの温度を調節するためで、部屋の温度調節はできません。
- 床暖房運転は、暖房時における部屋の上下の温度差を少なくするためであり、必要以上に床パネルの温度を上げないでください。

あらかじめ 50℃にセットされています。
お好みの温度に変えるときは水温調節スイッチで調節してください。
40 ～ 60℃の水温設定ができます。

①「水温」の表示部を見ながら水温調節スイッチでお好みの温度に設定してください。
- お好みの温度が点滅し、セットは完了です。
  点滅のあとは現在水温が表示されます。

【注意】

- 室温を優先してストーブの火力を調節しているために、下記のような状態で使用すると設定水温と現在水温が一致しないことがあります。

設定水温より高くなる場合

- 床パネルの設置枚数が 1 枚以下と少ないのに、火力が「中」以上で燃焼しているとき。
- 床パネル上に 2 枚以上ジュータンを敷いたり、こたつで覆っていて放熱が少なくなったとき。

設定水温より低くなる場合

- 床パネルの枚数が多い。
  （微少燃焼では床パネルの設置枚数は 3 枚以下です。それ以上ですと床パネルが暖まらないことがあります。）

- 床暖の温度制御はダンパーの開閉でおこなっているためダンパー動作時には音のする場合がありますが異常ではありません。
- 現在水温表示は 35℃未満の場合は「Lo」、64℃以上は「Hi」を表示します。

使いかた

床暖房運転とストーブ運転の切替えのしかた

■床暖房運転とストーブ運転の切替えのしかた

切替え操作と共にすぐに床暖房運転とストーブ運転が切替わります。

①床暖スイッチを押す。

「床暖房運転」←→「ストーブ運転」の切替えができます。床暖房運転時には床暖ランプが点灯します。

メモ

- **ストーブ運転から床暖房運転に切替える場合、条件によっては沸騰音のすることがありますが、異常ではありません。**
- **ストーブ運転から床暖房運転へ切替えた後 3 分間は、水温表示が「Lo」となります。3 分後には通常水温表示となりますので異常ではありません。**
- **ストーブ運転時は水温表示が消灯します。**

【注意】
- 床パネルを敷いていない状態では絶対に「床暖」運転にしないでください。

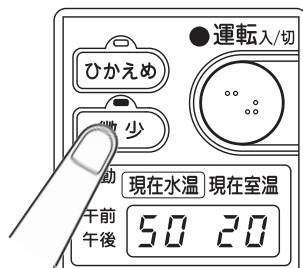
微少燃焼にワンタッチ切替…クイック微少

ワンタッチで微少運転したいときお使いください。

①微少スイッチを押す。

微少ランプが点灯し、微少運転になります。

解除するには

- もう一度微少スイッチを押す。
  微少ランプが消灯します。

秋口・春先に自動の点消火機能…ひかえめ運転

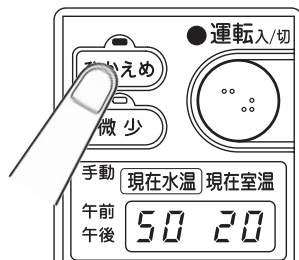
自動の室温調節に加えて、暑くなったときの消火も自動で行いたいときお使いください。

①ひかえめ運転スイッチを押す。

ひかえめランプが点灯します。

- 現在の室温が設定の室温より約 3℃高くなったとき自動的に消火し、設定室温まで下がると再度運転を開始します。

解除するには

- もう一度ひかえめ運転スイッチを押す。
  ひかえめランプが消灯します。

メモ

- **ひかえめ運転は手動運転中、手動運転中にクイック微少を押した状態では受け付けません。**
- **ひかえめ運転は消火・点火をくり返すため、通常運転に比べ消費電力が大きくなることがあります。**
- **この運転では室温をさげることは出来ません。**
- **消火温度は若干バラツキがあります。**

現在時刻の合わせかた

- 運転「入」「切」どちらの状態からでも現在時刻のセットができます。
- タイマーをご使用になる前に現在時刻のセットを行ってください。

①操作切替スイッチを押す。

スイッチを押す毎に「温度表示」→「タイマー設定」→「時計合わせ」の順にランプが移動しますので「時計合わせ」にきたら止めてください。

②時・分スイッチを押し時刻を合わせる。

「時」・「分」スイッチとも 1 回押すごとに 1 づつ増減します。押し続けると連続して増減します。

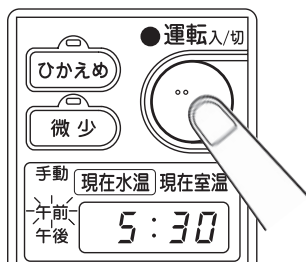
- コロンランプ「：」が点滅してセットは完了です。

タイマー運転のしかた

- 現在時刻合わせを行ってからタイマーをご使用ください。

①操作切替スイッチを押す。
スイッチを押す毎に「時計合わせ」→「温度表示」→「タイマー設定」の順にランプが移動しますので「タイマー設定」にきたら止めてください。

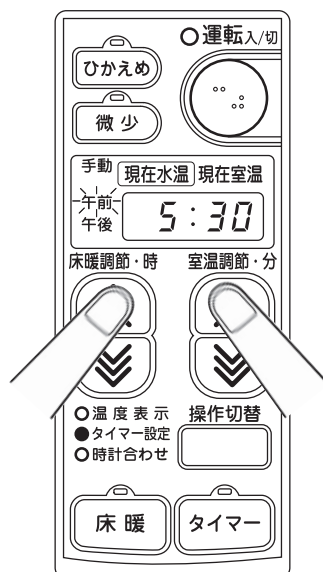
②時・分スイッチを押し時刻を合わせる。
「時」・「分」スイッチとも１回押すごとに１づつ増減します。押し続けると連続して増減します。

③運転スイッチを押し「入」にする。
（運転中は③の操作は必要ありません。）

④タイマースイッチを押す。
タイマーランプが点灯し、運転ランプが５秒間点滅後消灯し、セットは完了です。

解除するには
運転スイッチを押し「切」にするかタイマースイッチを押す。タイマーランプが消灯しセットが解除されます。

メモ
- **運転中にタイマースイッチを押すと、消火してタイマー予約になります。**
- **タイマー時刻は一度設定しておけばタイマースイッチを押すだけで同じ時刻に動作します。**
- **タイマー予約をした後停電や対震自動消火装置の動作があると、タイマー予約は自動的に解除されます。**

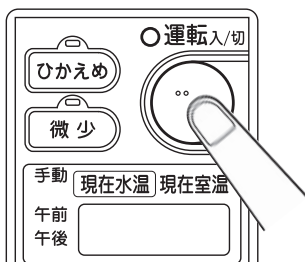
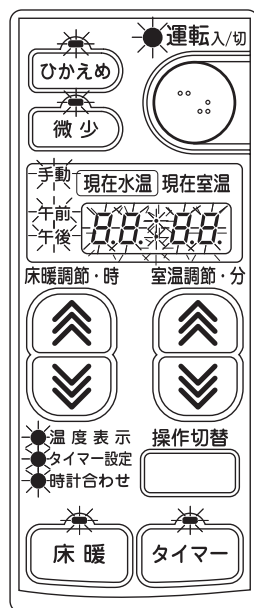
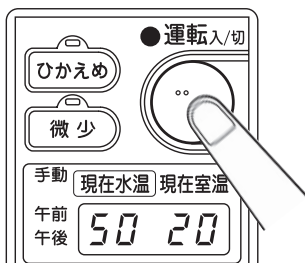
注意
- **タイマー運転では特に給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないか、ストーブ周囲に可燃物がないか注意してください。**

使いかた

停電時の注意

- 燃焼中停電になったり、電源が断たれたりすると燃料が止まり、自動消火します。
- 停電時に燃焼させることはできません。

■再通電後の点火

燃焼中に停電があり、その後再通電されたときは、全てのランプが点滅する状態になります。

①運転スイッチを押し「切」にします。

②運転スイッチを押し「入」にします。
運転ランプが点灯し燃焼を開始します。

【注意】
- 初めて使用するときやシーズン初めで、初めて通電させたときは、全てのランプが点滅します。その場合でも上記①、②の操作で点火してください。
- 排気筒外れ検知コードが接続されていないときは“E 40”が点灯します。（給排気筒の工事方法とその注意の 58 ページを参照してください。）
- 停電後、最初の点火操作では、必ず床暖房運転となります。
- 床パネルを接続しないで、ストーブ運転のみでご使用になる場合は、再点火後必ず床暖スイッチを押して、ストーブ運転にしてください。
- ストーブ運転中に停電し、再点火した場合には沸騰音のすることがありますが、異常ではありません。

給水サイン

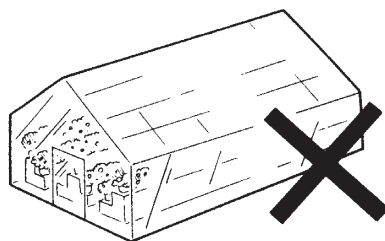
■給水サイン

● 不凍液の水位が下限以下になると給水サインとして一定時間警告音（ピピッ、ピピッ）が鳴ります。同時に床暖ランプが点滅しますのでこの間に給水を行ってください。
給水のしかたは 41 ページの「床パネルへの給水とエアー抜きのしかた」を参照してください。

【注意】
給水されないときは 10 分後に「E - 8 1」を表示し消火します。「E - 8 1」を表示した場合でも上記と同様に給水を行った後、再点火をしてください。

使いかた

使用上の注意

ストーブは居室専用につくられておりますので乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。火災になるおそれがあります。

電源プラグ抜差し注意

- 運転中に電源プラグを絶対に抜かないでください。（対流用送風機が停止し、操作部が高温になり、故障の原因となります。）
- 雷が発生したら電源プラグをコンセントから抜いてください。（この器具は雷に対する安全回路をそなえていますが、雷の条件によっては器具が故障することがあります。）
- 長期間留守にするときや、シーズンオフ時には、必ず電源プラグを抜いておいてください。

初期使用時、シーズン初期使用時の注意

- 40 ページの試運転の項を参考にして確認および操作をしてください。

純正部品をお使いください

床パネル、不凍液や配管部品などは必ずサンポット純正の部品をお使いください。純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。また、**保証期間内であっても本体の保証が受けられません**。各部品の工事、取扱方法はそれぞれの説明書をご覧ください。

使用雰囲気の注意

- フロンガスや塩素系有機溶剤を使用される雰囲気では、腐食性ガスの発生によりガラスなどを傷め、金属がさびたり、健康を害する場合がありますので、十分注意してください。

床面の変色に注意

- ほこりやタバコの煙などにより、本体下面や周辺の床面、畳、カーペットなどが変色することがあります。
  また、熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用しますと、熱でそり返えったり、フローリングのつやが消えることがありますので熱に強いマットなどをしいてください。

結露水の処理

- 給排気筒の先端より結露水がたれることがありますが異常ではありません。
- 排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。

床材に注意

- フローリング仕上げした床面上で床暖パネルを使用する場合には床暖房用の床材を使用するか、床暖パネルとフローリングとの間にカーペット等を敷いてください。通常の床材に床暖パネルを直接使用しますと、表面材のはがれやヒビ割れのおそれがあります。

不凍液

- 循環水には、凍結防止および腐食防止のため、必ずサンポット純正温水暖房用不凍液を使用してください。
  他の不凍液を使用すると、配管内部に不純物が付着しストーブの寿命が短くなることがあります。
- 不凍液に附属のシールは給水年月日を記入し、保管してください。
- 不凍液の割合は、各地の凍結温度条件により選定してください。
  不凍液割合と凍結温度は不凍液の容器に記載しています。

- 補充は必ずサンポット純正温水暖房用補充液を使用してください。
- 不凍液は、幼児の手の届かない所に置いてください。万一飲んだ場合には、すぐに吐かせて医師の診察を受けてください。

その他の注意

- 初めてご使用になるときや、シーズン始めに使用する場合は、給油してから数分間放置し、定油面器に灯油をためてから点火操作を行ってください。
- 初めてお使いになるときは、安全装置が「点火前の準備と確認」(13 ページ)をした状態になっているか確かめてください。
- 初めて使用する場合、青い炎の中に多少の黄色い炎が混じることがあります。これはバーナの加工時の油等が原因しています。
- **長期間使用しますと、ガラス内部に白い物質が付着することがあります。これは灯油成分中の硫黄分が付着するためで、ガラスの耐久性は問題ありません。(有料にて交換することができます。)**
- 循環水が冷えているときの点火時に「ジュッ」という蒸発音のすることがあります。これは排ガスが結露して熱交換器内で蒸発する音で異常ではありません。

使いかた

日常の点検・手入れ

点検、手入れは必ずストーブが冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

点検手入れのときの注意

次のことは絶対に行わないでください。

- 対震自動消火装置の取りはずしや分解。
- 電磁ポンプの分解や調整。
- バーナーの取りはずしや分解。
- 電装部品の調整、取りはずしや分解。
- 定油面器の分解や調整。

使うたびに

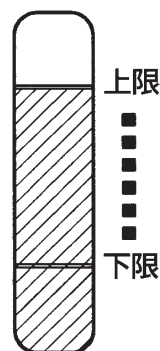
1. 周囲の可燃物

ストーブの周囲に、燃えやすいものがないか常に注意してください。

2. 油漏れ、油のたまり、油のにじみ

油タンク及び送油管の接続部から、油漏れや油のにじみがないか、また置台の周辺に油のたまりがないか点検してください。油漏れがあった場合は、接続部をしっかり締付けてください。

3. 循環水の水位の確認

- 水位が器具前面の水位計で「上限」と「下限」の間にあることを確認してください。
  不凍液が入っていますので、循環水は緑色になります。
  循環水は大気開放式のため室内に蒸発しています。
  週１回程度水位を確認し、減っている場合には温水暖房用補充液を上限まで給水してください。給水のしかたは38ページの「床パネルへの給水とエアー抜きのしかた」を参照してください。
  循環ポンプが運転すると若干水位が下りますが、循環ポンプの停止後は水位は戻ります。水位の確認は循環ポンプが停止した状態で行ってください。
- 温水暖房用補充液を何回給水しても不凍液の濃度は変わりませんが、防せい力が落ちますので６～７年に１回は交換してください。
- 循環水の減りかたが異常にはやくなった場合は、温水配管や床パネル、本体からの漏れが考えられます。各部を点検してください。

月に１～２回

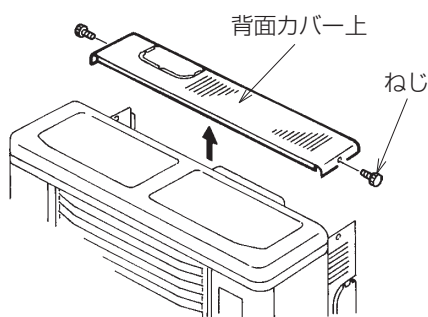
1. ほこり、汚れの掃除

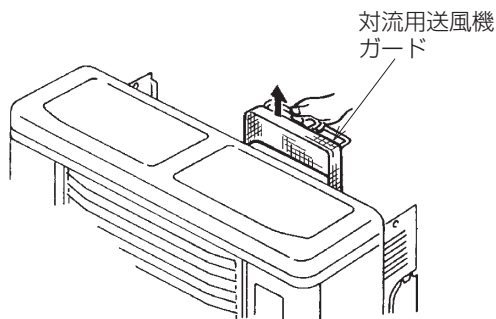
- 外板、前面パネルの汚れは、やわらかい布でふいてください。特に汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、充分からぶきしてください。
- 置台の上にたまったごみやほこりは、掃除機などで掃除してください。

2. 対流用送風機ガードの掃除

- ストーブ背面の対流用送風機ガードにごみやほこりが付着しますと、暖房能力の低下や過熱の原因になります。
- １週間に１度は、対流用送風機ガードにほこりが付着しているか点検してください。ごみやほこりが付着しているときは、ストーブの使用を止めて、対流用送風機ガードを外して掃除するか、掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。
- 水洗いや、ぞうきんなどでのふきとり掃除は行わないでください。

対流用送風機ガードの外し方

①背面カバー上を固定している左右のねじを外し、背面カバー上を外してください。

②対流用送風機ガードのとってを持ち、対流用送風機ガードを外してください。

③掃除終了後は、確実に取り付けてください。

【注意】

対流用送風機ガードの掃除は、必ずストーブを消火して、ストーブ本体が冷えてから行ってください。
燃焼中には絶対に行わないでください。

1 シーズンに 1 ～ 2 回

1. 給排気筒の接続部のゆるみおよびトップの周囲

- 異物が入っていないか、給排気筒の接続部の外れ、ゆるみ、腐食、固定の状態や周囲に危険なものはないか点検してください。
- 給排気筒及び排気管がしっかり接続されていない場合には、排気筒外れ検知装置により消火し、デジタル表示部へ"E40"を表示します。

2. ゴム製送油管、温水循環用ゴムホース

- ゴム製送油管や温水循環用ゴムホースにひび割れが生じていないか点検します。
- ゴム製送油管や温水循環用ゴムホースは経年変化しますので 3 年に 1 度新しい物に交換してください。
- 交換はお買い求めの販売店に依頼、又は最寄りのサンポット支店・営業所にご相談ください。

3. 油タンク

油タンク内には水やごみがたまりやすいものです。給油の際、点検し次の要領で手入れをしてください。

- 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検します。
- 油タンク内の水抜き、ストレーナ（ろ網）の掃除は、油タンク附属の取扱説明書にしたがって行ってください。

4. 水位の確認

シーズン初めには必ず水位を確認し、不足している場合には温水暖房用補充液を上限まで補給してください。
（給水のしかたは 41 ページを参照）

故障・異常の見分け方と処置方法

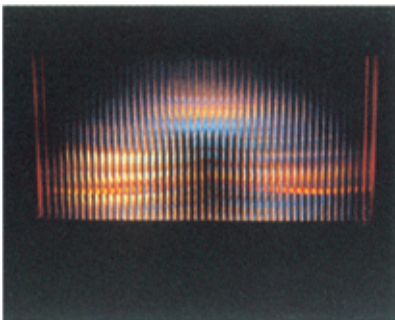
モニター表示

デジタル表示部へ次のモニター表示がされたら、原因を取り除いて使用してください。

表　示	原　因（安全装置）	処　置　方　法
8888	停電があった。 **（停電安全装置）**	運転スイッチを押し「入」から「切」にする。
E11	運転中、室温が異常高温になった。 自動的に微少燃焼になります。	換気をして室温を下げる。室温が下がると自動的に解除されます。
E20	本体内部が過熱した。 対流用送風機ガードのほこりつまり。 燃焼中に停電があった。 **（過熱防止装置）**	対流用送風機が停止してから、ガードの掃除をする。（27 ページ参照） 掃除が終わったら、運転スイッチを押し「切」にする。 再度 “E20” が表示された場合は、サービスを依頼してください。
E23	地震や強い振動、衝撃を受けた。 **（対震自動消火装置）**	地震によって作動した場合、周囲の可燃物、機器の損傷、油漏れ、給排気筒の外れなどの異常がないことを確認し、運転スイッチを入れなおす。
E40	排気筒が外れた。 **（この機種には排気筒外れ検知装置がついています。）**	排気筒の外れを直してから運転スイッチを押し「切」にする。 また、給排気筒へのコードの固定が不完全な場合も考えられます。しっかり固定してください。
E81	床暖運転中に貯湯タンクの水位が低下した。 **（この製品には循環水位検知装置がついています。）**	製品正面の水位計の「上限」まで温水暖房用補充液を給水する。 （41 ページ参照）
	貯湯タンクに水がない状態で床暖房運転に切替えた。	製品正面の水位計の「上限」まで温水暖房用不凍液を給水する。 （41 ページ参照）

デジタル表示部へ次のモニター表示がされたら、本体に異常があります。
部品交換が必要な場合はサービスを依頼し、モニター表示の内容を伝えてください。

表　　示	原　因（安全装置）	●原　因　　　○処　置
0 IL	ストーブに灯油が来ていない。 **（この機種には油切れ検知装置がついています）**	●定油面器に灯油がない。 ○油タンクへ給油する。（12ページ参照） ○油タンクのコックレバーを確認する。（15 ページ参照） ○定油面器のリセットボタンを押す。（13 ページ参照） ○運転スイッチを押し「切」にする。 ○再度運転スイッチを押し「入」にして再点火する。（15 ページ参照）
E0 I	着火ミスした。 **（点火安全装置）**	●定油面器に水がたまっている。 ○運転スイッチを押し「切」にする。 ○再度運転スイッチを押し「入」にして再点火する。（15 ページ参照） ⬇ 再度 “E0 I” が表示された場合は電磁ポンプの故障等が考えられます。サービスを依頼してください。
E02	異常燃焼した。 送油経路内に空気が混入した。	●給排気筒の先端がふさがれている。 ○障害物を取り除く。（３ページ参照） ⬇ 上記に原因がない場合は、再点火を行ってください。再度 “E02” が表示された場合はサービスを依頼してください。

異常燃焼

異常燃焼を長時間続けますと、バーナー部などにカーボンが付着し、故障の原因となりますのでサービスを依頼してください。

デジタル表示部へ次のモニター表示がされたら、本体に異常があります。
部品交換が必要な場合はサービスを依頼し、モニター表示の内容を伝えてください。

表　　示	原　因（安全装置）	●原　因　　○処　置
E03	燃焼中消火した。 **（燃焼制御装置）**	● 定油面器に水がたまっている。 ○ 運転スイッチを押し「切」にする。 ○ 再度運転スイッチを押し「入」にして再点火する。（15 ページ参照） ⬇ “E03” が表示された場合は油面センサーの故障等が考えられます。 サービスを依頼してください。
E07	炎有り検知した。	● フレームセンサー短絡 ○ サービスを依頼してください。
E12	運転中に室温センサーが断線した。 自動的に微少燃焼になります。（自動運転時）	○ サービスを依頼してください。
E13	給気温センサーが短絡した。	○ サービスを依頼してください。
E14	給気温センサーが断線した。	○ サービスを依頼してください。
E24	水温が異常高温になった。 自動的に微少燃焼になります。	● 床パネルの設置枚数が少ない。 ○ 3 畳以上にする。 ● 床パネルの放熱が悪い。 ○ 床パネルの上はジュータン 1 枚にする。 ● ペアホースの折れ、つぶれ。 ○ 折れ、つぶれを直す。 ⬇ 水温が下がると自動的に解除されます。解除されない場合は、水温センサーの故障等が考えられます。サービスを依頼してください。 （修理までの間、ストーブ運転は可能です。）

デジタル表示部へ次のモニター表示がされたら、本体に異常があります。
サービスを依頼し、モニター表示の内容を伝えてください。

表　　示	原　因（安全装置）	●原　因　　　○処　置
E31	気化器サーミスタが短絡した。	○サービスを依頼してください。
E32	運転中に気化器サーミスタが断線した。	○サービスを依頼してください。
E34	予熱時、気化器サーミスタが一定の温度に達しなかった。	●気化器サーミスタ断線 ●気化器ヒータ故障 ○サービスを依頼してください。
E51 E53	燃焼用送風機が動作しなくなった。	●燃焼用送風機の故障 ●電源基板の故障 ○サービスを依頼してください。
E61	水温センサーが断線した。 自動的に微少燃焼になります。	○サービスを依頼してください。 （修理までの間、ストーブ運転は可能です。）
E71	ダンパーモーターが動作しなくなった。または、ダンパーマイクロスイッチが故障した。 自動的に微少燃焼になります。	●ダンパーモーターの故障 ●マイクロスイッチの故障 ●ダンパーモーター部へ異物が入った。 ○サービスを依頼してください。
E90	ハーネスが不接続	●操作部のハーネス抜け ○サービスを依頼してください。

修理を依頼される前に

修理・サービスを依頼されるまえに次の表に従ってもう一度お確かめください。
◎印を先に点検してください。

現象 ＼ 原因	ランプが点灯しない点火操作をしても運転	点火しない	炎が大きくならない	窓がくもる	音をたてて燃える	においがする	油が漏れる	途中で消火する	沸騰音がする。(注参照)	温水経路に温水が流れない	パネルが暖まらない	水が漏れる。	処置方法	参照するページ
油タンクに燃料がない。		◎						◎					給油する。	12
油タンク、定油面器に水が入った。		◎	○					○					消火操作をしてから水を抜く。	28 29
油タンクのコックレバーが閉じている。		◎											コックレバーを開く。	15
ゴム製送油管に空気だまり。		◎	○										油タンク、ゴム製送油管を持ち上げ、振ってみる。凸部は平らにする。	12
電源が切れている。	◎	○											電源を入れる。	13
気化器ヒーターの断線。		○											販売店に依頼して交換する。	38
油配管の締付けが不完全。						○	○						販売店に依頼して修理する。	38 50
定油面器の故障。		○											販売店に依頼して修理する。	38
定油面器の安全装置が作動した。		○											リセットボタンを押す。	13
自動運転で設定室温が低すぎる。手動運転で火力が小さい。			◎										設定室温を上げる。 設定火力を上げる。	17
ひかえめスイッチが押されている。								○					ひかえめ運転を解除する。	20
高地で使用している。				○									高地用の空気量設定を行う。	51
給気ホース、排気管を限度以上に延長している。				○	○								正しく取付け直す。	46
給気ホース、排気管の接続が不完全。						○							正しく取付け直す。	55
室温センサーが暖かい所に付いている。			○										室温センサーを移動する。	53
貯湯タンクの水不足。									◎				給油する。運転スイッチを押して、エラー表示を消灯させる。	41
温水配管のつぶれ、循環ポンプのエアーかみ。									◎	◎	○		エアー抜きをする。温水配管のつぶれをなくす。	41
温水配管接続不良。									◎			◎	ホースバンドを締め直す。	52
上記以外。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サービスを依頼する。	38

■点検の結果、機器の原因に基づく異常の場合は、そのままにし、直ちに販売店等に連絡してください。

（注）下記の１～３の場合の沸騰音は一時的なもので異常ではありません。
1. 負荷（床パネル枚数、外気温等）が小さいのに油量が多いとき、または水温設定が高いとき。
2. 室温が－10℃以下に冷えこんだとき。
（ストーブとは別に床パネルの敷設してある部屋や、床パネルへの温水配管を通している場所が－10℃以下に冷え込んだときも同じです。）
3.「ストーブ単独」運転から「床暖」運転に切替えたとき。

次のような場合は故障ではありません。

	現　　象	原　　因
運転開始時	運転開始時および停止時に、「ピチピチ」音がする。	●熱交換器やバーナ部の膨張収縮音です。 異常ではありません。
	運転開始時および停止後に、「ボコン」という音がする。	●本体が熱により膨張、収縮するためです。
	燃焼開始後、炎が赤火になる。	●点火を確実にするためで、15 ～ 20 秒位で正常になります。
	すぐ点火しない。	●石油ガス化方式のため予熱時間が約 1 分半程必要です。 ●送油経路の空気だまりなどにより、1 回で着火しないで、自動的に着火を繰り返すことがありますが異常ではありません。
	初めて使用するとき、煙やにおいが出る。	●耐熱塗料やほこりが焼けるためです。
	初めて使用するとき「コトコト」音がする。	●ポンプ内に空気が混入しているためです。 空気が抜ければ静かになります。
	点火後数秒間「ボッボッ」という音がする。	●異常ではありません。
	本体から水が蒸発する「ジュッ」という音がする。	●点火初期に発生する結露水が熱交換器内で蒸発するためです。 異常ではありません。
燃焼時	瞬間的に炎が大きく広がる。	●送油経路内に空気が入ったとき発生する現象であり、異常ではありません。
	点火プラグ、フレームロッド、バーナーヘッドが赤くなる。	●炎に熱せられ赤熱するためです。
	炎が赤橙色に輝く。	●ブルー炎が最良の燃焼状態ですが、炎色反応により炎が赤橙色に輝くためです。 ●海岸に近い所など空気中に塩分が多いためです。 ●空気中に浮遊じんが多いためです。
その他	運転停止後再運転しない。	●運転停止後しばらくたちバーナーが冷えますと、すぐ運転開始しないことがあります。ヒーターの予熱中ですので 20 ～ 100 秒待ってください。
	窓が白くなる。	●灯油中の成分がガラスに付着するためです。 異常ではありません。
	暗い時、リセットボタンを押す窓から赤い光が見える。	●定油面器の油切れ検知装置の点滅光です。 異常ではありません。

定期点検 / 部品交換のしかた

● **部品交換が必要なとき**
バーナー部、燃焼筒、電磁ポンプ、点火プラグ、給排気筒 O リング〔4 種 D（フッ素）P40〕及び電流ヒューズなど部品交換が必要なときは、お買い求めの販売店又は修理資格者〔(財) 日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店、又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。

● **定期点検のおすすめ**
長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2 シーズンに 1 度程度、シーズン終了時などに、お買い求めの販売店又は修理資格者〔(財) 日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。（有料）

保管（長期間使用しない場合）

暖房シーズンが終わったら次のような手入れをして、設置したままで保管してください。
（温水配管を接続したままで保管する場合は、水位「上限」まで給水しておいてください。）

1. 初めに

①電源プラグを抜く。
②油タンクのコックレバーを閉じて、ドレン受けの水抜きをする。（28 ページ参照）
● ゴム製送油管を外す場合は、燃料がたれることがあるので注意してください。

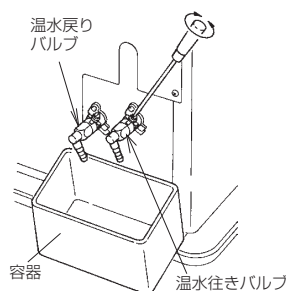
2. 掃　除

①対流用送風機ガードを掃除する。（27 ページ参照）
②キャビネット外側の汚れは中性洗剤でふき取る。

3. 保　管

①ポリ袋をかける。ポリ袋が給排気筒に当たる部分は切込みを入れる。
②温水配管を接続したままで保管する場合は、水位「上限」まで給水してください。
③ストーブ本体内の不凍液を抜く場合は、次の手順で水抜きを行ってください。

1. 往きバルブと戻りバルブの下に容器を当て、不凍液を受ける準備をしてください。（本体内の不凍液容量は約 1.2 リットルです。）
2. 往き、戻りのバルブを両方とも「開」にしてください。不凍液が流れ出ます。
3. ストーブ本体内の水抜きが終わりましたら、往き及び戻りバルブを閉じてください。

● 保管の際に、取扱説明書も一緒にすると紛失しないで済みます。

【注意】
● **特別な理由のない限り、給排気筒から取外して保管することはやめてください。取り外した場合の再据付けは、必ずお買求めの販売店又は工事店にご相談、ご依頼ください。**
● **濡れている手で絶対に電源プラグに触れないでください。感電のおそれがあり危険です。**

お手入れ・その他

仕　様

型式の呼び	UFH-701SX	
種類	回転霧化式・強制給排気形・強制対流形	
点火方式	電気点火式	
使用燃料	灯油（JIS１号灯油）	
燃焼状態	最　大	最　小
燃料消費量	8.12kW（0.789L/h）	2.47kW（0.24L/h）
発熱量（入力）	29,230kJ/ｈ	8,890kJ/ｈ
熱効率	86.0%	86.0%
暖房出力	6.98kW	2.12kW
最大床暖房出力	1.16kW	
本体水容量（上限まで）	1.2Ｌ	
床暖房用熱交換器の最高使用圧力	貯湯タンク大気開放形	
外形寸法	高さ615㎜、幅726㎜、奥行302㎜（置台を含む）	
質量	35㎏	
電源電圧及び周波数	100Ｖ　50/60Hz	
定格消費電力	最大（点火時）　880/880W 床暖燃焼時　63/66W（大）　40/46W（微少）	
待機時消費電力	1.0/1.0W	
床パネルの接続面積	4.3～6.5㎡（３～4.5畳）	
給排気筒の型式の呼び	FWT-6Z	
給排気筒の呼び径	Ｄ40	
給排気筒の壁貫通部の孔径	70～80㎜	
排気温度	260℃以下	
電流ヒューズ	制御基板7Ａ、電源10Ａ、スイッチング電源4Ａ	
安全装置	対震自動消火装置・過熱防止装置・燃焼制御装置・停電安全装置・点火安全装置	
その他の装置	循環水位検知装置・排気筒外れ検知装置・油切れ検知装置	
温水配管接続口径	８㎜	
附属品	置台、給排気筒セット、Ｌ形排気管、断熱カバー、給気ホース、抜け止め金具、給気用ホースバンド（2個）、ホースバンド（温水用4個）、ペアホース、壁固定金具、背面カバーセット、取扱説明書、工事説明書、保証書、別冊取扱説明書、所有者票	

アフターサービス

1. サービスを依頼される前に

サービスを依頼される前に 30 ～ 35 ページ「故障･異常の見分け方と処置方法」「修理を依頼される前に」を参照し、もう一度確認してください。
それでも処置に困るような場合には、お買い求めの販売店、又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。

● サービスを依頼されるときは、次のことをお知らせください。
① 型式の呼び：UFH－701SX、「製造番号」
② 現　象：異常・故障等詳しく。
③ ご住所、お名前、電話番号　④ 訪問ご希望日

● 型式の呼びはむかって右側面に表示してあります。

2. 保証について

● 保証書（別に添付してあります）
保証書は必ず「お買い上げ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと大切に保存してください。
保証期間＝お買い上げ日から 1 年間。

● 保証期間中の修理は無料で行います。
ただし、保証期間中であっても有料となる場合があります。詳しくは保証書に記載の「無料修理規定」をお読みください。

● 無料修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理いたします。

3. 補修用性能部品について

密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後７年です。
○ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

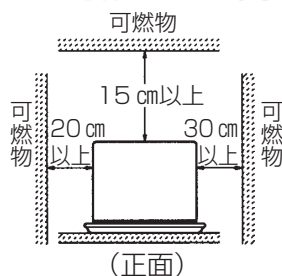
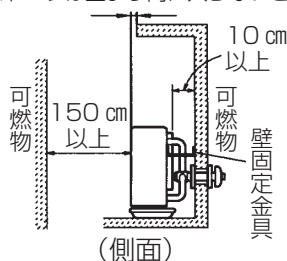
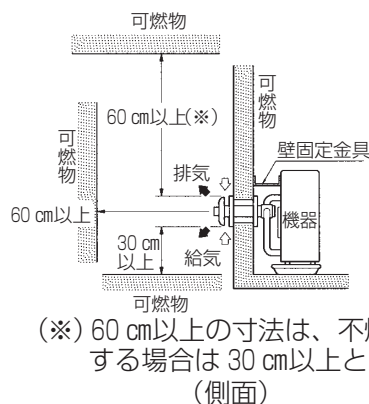
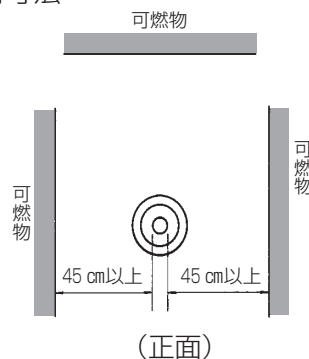
据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店または設置業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事編の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、販売店又は据付業者とよくご相談してください。

1. ストーブの据付け図例

（正面）

（側面）

2. 給排気筒の取付け図例

標準取付寸法

（正面）

（※）60 cm以上の寸法は、不燃材を使用する場合は 30 cm以上とする。
（側面）

- **上図では可燃物までの隔離距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図隔離距離としてください（※部は除く）。**
- **給排気筒は室内から屋外にかけて 3° の下り勾配で取り付けてください。**

給排気筒を延長する場合の注意

給排気筒を延長する場合は、 3m3曲がり以下で取付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。
また風がよどむような場所では排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事編の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事編に記載されているとおり据付けられているかどうか確認してください。

試運転

試運転は、販売店又は据付業者と一緒に必ず行ってください。

1. 運転準備

①油タンクに灯油が給油されているか確認してください。
②油タンクおよび本体各部に油もれがないことを確認してください。
③油タンクのコックが開になっているか確認してください。
④定油面器のリセットボタンを２～３回押してください。
⑤ 41 ページの「床パネルへの給水とエアー抜きのしかた」に従い、不凍液の給水とエアー抜きを行ってください。
⑥背面の往きバルブ及び戻りバルブが開いていることを確認してください。
⑦床パネル及びペアホースの接続部に水もれがないことを確認してください。
⑧不凍液が水位計の「上限」にあるか確認してください。
⑨電源プラグはきちんと専用コンセントに差込まれているか確認してください。

2. 運　転

①運転スイッチを押してください。（運転ランプが点灯します。）
②**床パネルを接続しないで、ストーブ運転のみでお使いになる場合には必ず床暖スイッチを押し、ストーブ運転にしてください。**
③運転ランプが点灯し、約 100 秒で自動点火し、点火後約 1 分で自動運転又は設定火力になります。

- 点火しない場合は、燃料がでていないので、次の処置を行ってください。

①再度運転操作を行う。
②定油面器のリセットボタンを軽く２～３回押し下げてください。（13 ページ参照）
③コックレバーが「開」になっているか確認してください。
④油タンクを持ち上げて送油経路の空気抜きをしてください。

- 点火初期・消火時に、熱膨張・収縮により金属のきしみ音などが発生することがありますが、異常ではありません。
- **正常運転の目安**

①点火操作後約100秒で自動点火する。
②設定スイッチを「Lo」から「Hi」にしても異常燃焼しない。
③数十分で本体背面のペアホースが暖まる。

3. 消火の手順

①運転スイッチを押し「切」にしてください。（運転ランプが消灯します。）
②瞬時に消火し、約10分で燃焼用送風機が停止します。

以上の項目で異常がなければ正常に運転しています。

床パネルへの給水とエアー抜きのしかた

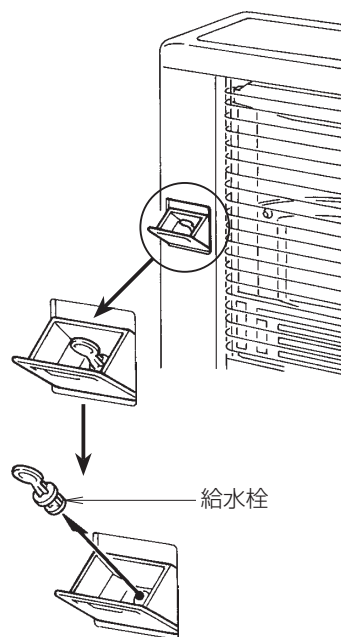
床パネルの接続

工事編の「床パネルの接続」（P50 ページ）に従い床パネルを接続してください。

給水のしかた

①製品正面の給水扉を押すと給水口が開きます。
②給水栓を抜いて、給水してください。
　給水栓を抜かないと、給水ができません。
③不凍液は凍結防止及び腐食防止のため、必ずサンポット純正温水暖房用不凍液をご使用ください。
　（不足分の補充にはサンポット純正温水暖房用補充液をご使用ください。）
　● 凍結の心配のない地域でも防錆・防食効果を保つため必ず不凍液を入れてください。
　● 他の不凍液を使用すると、配管内部に不純物が付着しストーブの寿命が短くなることがあります。
④不凍液の割合は、各地の凍結温度条件により選定してください。
　不凍液割合と凍結温度は不凍液の容器に記載しています。
⑤不凍液使用量の計算例

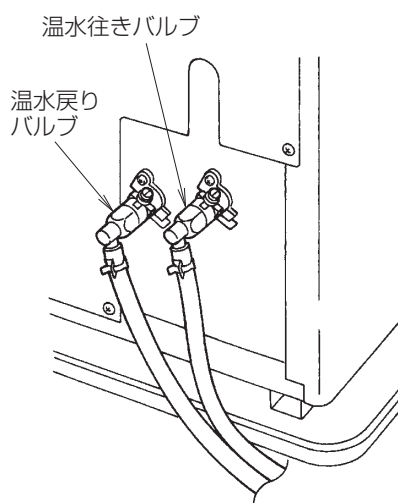
不凍液の計算例（ソフトパネル 4.5 畳の場合）

本　　体	水位上限まで	1.2 リットル
床 パ ネ ル	ソフトパネル（4.5 畳用）	3.0 リットル
ペアホース	2.5m（約 0.1 リットル /m）	0.3 リットル
		4.5 リットル

【注意】

- **貯湯タンク内に水がないときは、循環ポンプを運転させないでください。必ず水位計の上限まで給水してから循環ポンプを運転させてください。**
- **給水はこぼれないよう注意してください。**
- **給水後は必ず給水栓を差し込み、扉を閉めてください。**

エアー抜き

水位計の上限まで給水したのち、次の手順でエアー抜きを行ってください。
※往き、戻りのバルブを両方とも「開」にしてください。
次の操作で循環ポンプのみを運転させてください。

①運転スイッチを「切」にした状態で電源プラグをコンセントに差し込んでください。
②全てのランプが点滅しています。**(この点滅状態からでないと循環ポンプのみの運転はできません)。**点滅していない場合には電源プラグを抜き再度コンセントに差し込んでください。
③「床暖スイッチ」を3秒以上押してください。
④「SLFS」が表示されます。
⑤運転スイッチを「入」にすると循環ポンプが単独で運転します。
循環ポンプ運転中のデジタル表示は「PUon」となります。
運転スイッチを「切」にすると循環ポンプが停止し、デジタル表示は「SLFS」に戻ります。
⑥循環ポンプ内の「シャー」という音が消えたら、循環ポンプのエアー抜き完了です。（約2分程度）
⑦パネルに不凍液が流れ、水位計の水位が低下しますので、水位が下限以下にならないよう目盛を見ながら不凍液を補充してください。
⑧水位が安定しましたら、床パネルをよく振ってパネル内のエアーを抜いてください。
⑨運転スイッチを「切」にして循環ポンプを停止してください。

メモ

- **水位が貯湯タンクの下限以下の場合には、循環ポンプは動作しません。また、給水中に下限を下回った場合にも循環ポンプは自動的に停止します。給水を行い、水位が上昇すると循環ポンプは自動的に運転します。**
- **循環ポンプが運転すると水位は若干下がりますが、循環ポンプが停止すると水位は戻ります。水位の「上限」の確認は、循環ポンプが停止した状態で行ってください。**

⑩２～３分後に再度水位を確認してください。上限に満たない場合は、上限まで給水してください。
⑪電源プラグを抜いて再度入れてください。通常運転状態に戻ります。
⑫給水後は必ず給水栓を差し込み、扉を閉めてください。
⑬水漏れのないことを確認してください。

工事編

設置工事の前に、この工事編をよくお読みのうえ正しく据付けてください。

安全のために必ずお守りください

■ここに示した事項は，⚠警告 ⚠注意　に区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■イラスト（まんがなど）の横にある記号は次のことを表しています。

⃠	禁止（してはいけないこと）を表わしています。
❗	指示（必ず実施していただくこと）を表わしています。

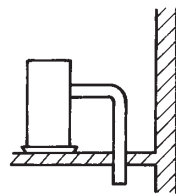
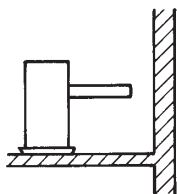
⚠警告

1. 据付けや移設は、販売店又は据付業者が行ってください。

●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。

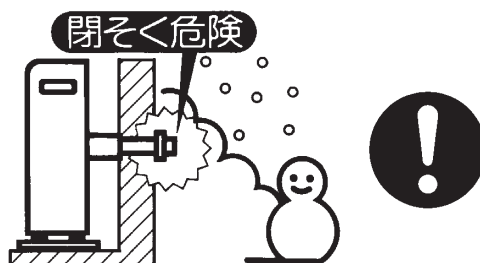
2. 据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守って行ってください。

3. 屋内給排気および床下給排気禁止

●屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。
必ず屋外に排気してください。

4. 排気筒(給排気筒)を確実に接続

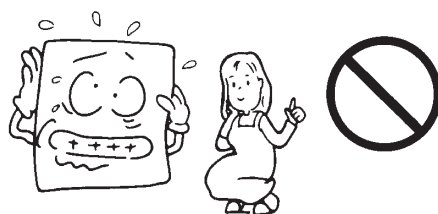
● 排気筒（給排気筒）を確実に接続し、しっかりと固定してください。
風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

5. 給排気筒トップは閉そくしない場所に設置

● 積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

⚠注意

1. 次の場所には据付けない

火災や予想しない事故の原因になります。

(1) 水平でない場所、不安定な場所
(2) 不安定な物をのせた棚などの下
(3) 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
(4) 付近に燃えやすいものがある場所
(5) 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
(6) 温室、飼育室など人のいない場所
(7) 標高 1,200m 以上の高地

2. 可燃物との距離を離す

ストーブ本体や給排気筒から周囲の可燃物までの離隔距離は下図のようにしてください。

【標準据付け例】

1. ストーブの据付け図例

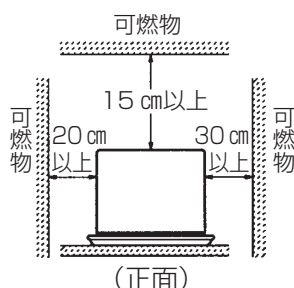
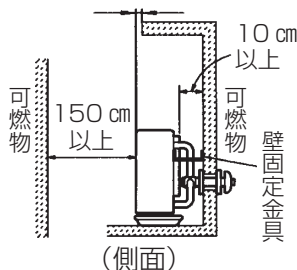
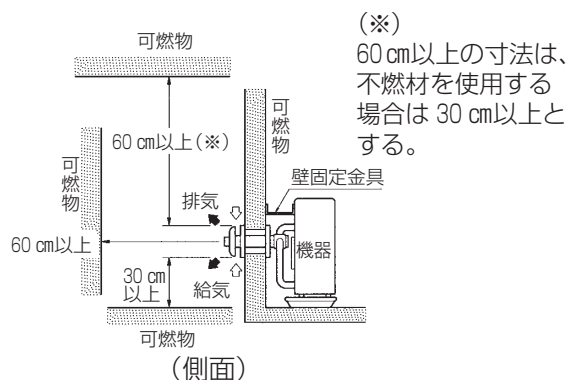
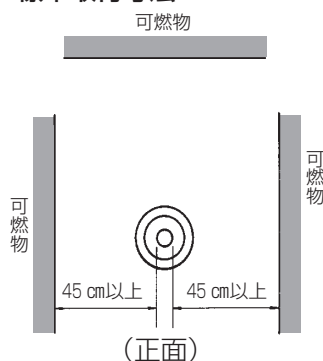
（正面）

（側面）

2. 給排気筒の取付け図例

標準取付寸法

（正面）

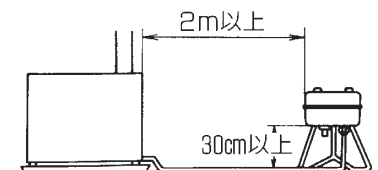
（側面）

（※）
60 cm以上の寸法は、不燃材を使用する場合は 30 cm以上とする。

- ストーブ本体は附属された置台の上に据付けてください。
- 上図では可燃物までの隔離距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、
- 不燃物などの場合も上図隔離距離としてください（※部は除く）。
- 給排気筒は室内から屋外にかけて 3°の下り勾配で取り付けてください。

3. 油タンクとの距離を離す

⑴油タンクは機器より 2m 以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。
ゴム製送油管以外（ビニールホースなど）は使用しないでください。

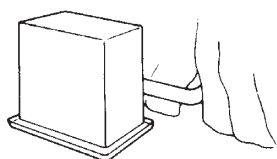
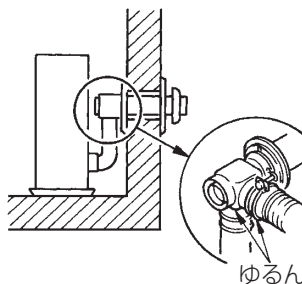
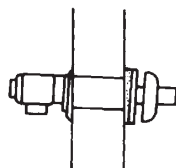
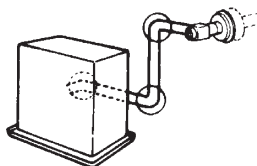
⑵据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けてください。たたみ・じゅうたんなどの上には据付けないでください。

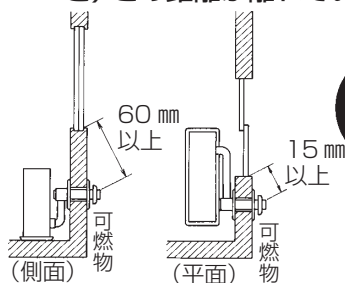
工事編

4. ゴム製送油管の屋外使用禁止

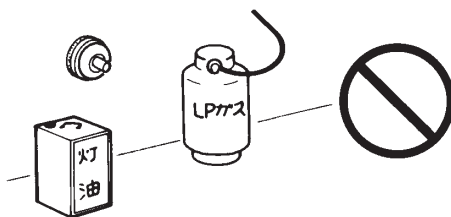
- ゴム製送油管を屋外では使用しないでください。
  ひび割れを生じて油漏れの原因になります。
  屋外部分および埋設部分は、銅管（外径 8 ㎜、肉厚 0.6 ㎜以上）を使用してください。

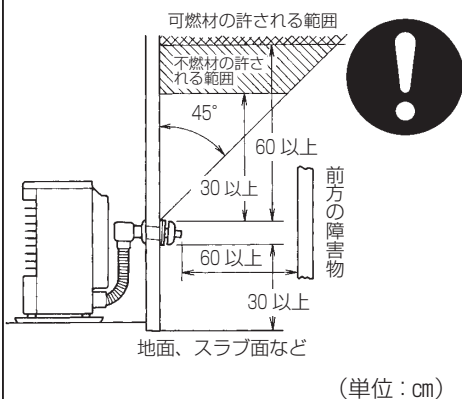
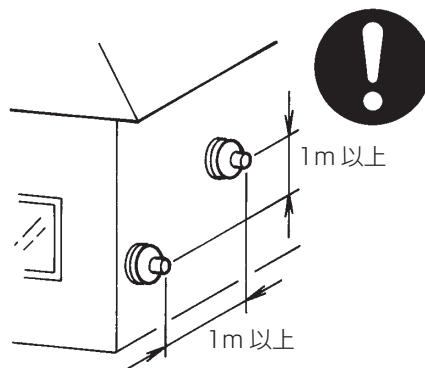
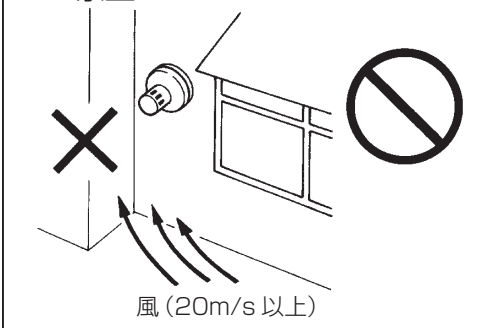
5. 排気筒（給排気筒）の点検

- 据付けが終わりましたら、もう一度点検してください。
  次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。

1. 可燃物近接禁止

2. 接続部のゆるみ禁止

3. 下り勾配のこと

4. 3m3 曲がり以下のこと

曲がり：3 箇所以下
延長　：3m 以下

5. 給排気筒トップと開口部（窓など）との距離が離れていること。

6. 給排気筒トップ付近の危険物近接禁止

工事編

7. 給排気筒トップと上方不燃物との距離は 30 ㎝以上離す

可燃材の許される範囲
不燃材の許される範囲
45°
60 以上
30 以上
前方の障害物
60 以上
30 以上
地面、スラブ面など
（単位：㎝）

8. 他の排気筒（給排気筒）と 1m 以上離す

9. 先端が強風の吹きだまり設置禁止

その他

- 給排気筒は集合煙突には絶対に取付けないでください。
- 人通りの激しいところや、雪や風の吹きだまりになるような場所、ツララの真下になるようなところには取付けないでください。

開こん

1. 開こんの際の注意事項

ダンボール箱からストーブを取り出しましたら、ダンボール、テープなどの包装材を取除いてください。

2. 附属品一覧表

● 附属品として次のものが用意されていますので確認してください。

名称	個数	略図	用途
置台	1		本体の下に敷きます。
給排気筒	1		壁又は窓に取付け、給排気に使用します。
スペーサー	1★		室外フランジと給排気筒の間に使用します。
室外フランジ	1★		外壁・外パッキンと給排気筒・スペーサーの間に使用します。
外パッキン	1★		外壁と室外フランジの間に使用します。
室内フランジ	1★		給排気筒を壁に固定します。
内パッキン	1★		室内フランジと内壁の間に使用します。
壁固定金具A	1		本体と壁を固定します。（壁側）
壁固定金具B	1		本体と壁を固定します。（本体側）
送油ホースバンド	2		ゴム製送油管を固定します。
脚カバー	2		本体と置台を固定します。
ペアホース2.5m	1		床暖パネルと本体をつなぎます。
ホースバンド（温水用）	4		ペアホースを固定します。
給気ホース	1		ストーブ（給気口）と給排気筒(給気口)を接続します。（本体に取付けてあります）
給気ホースバンド	2		給気ホースを固定します。（1個は本体に取付けてあります）
L形排気継手	1		ストーブ（排気口）と給排気筒(排気口)を接続します。（本体に取付けてあります）
抜け止め金具	1		L形排気継手の抜け止めに使用します。
★印のものは給排気筒に取付けてあります。			

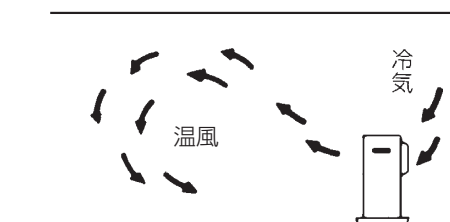
名称	個数	略図	用途
排気筒断熱カバー	1		L形排気継手にかぶせます。
排気筒固定金具	1		L形排気継手をストーブに固定します。（本体に取付けてあります）
取付ねじ（ボルト）	2		壁固定金具A、Bを固定します。
取付ねじ	1		壁固定金具を固定します。
取付ねじ（ステンレス）	3		給排気筒を壁に固定します。
コード固定ねじ（ボルト）	1		排気管外れ検知用のコードを固定します。
取付ねじ（黒）	4		脚カバーを固定します。
取付ねじ	1		室温センサーを壁に固定するときに使用します。
背面カバー右	1		本体の背面に取付けます。
背面カバー左	1		本体の背面に取付けます。
背面カバー上	1		本体の背面に取付けます。
化粧ねじ	2		背面カバー上を固定します。
取扱説明書（本紙）	1		機器の取扱いについて記載してあります。
工事説明書	1		機器の工事方法について記載してあります。
保証書	1		機器の保証内容について記載してあります。
別冊取扱説明書	1		点検制度について記載してあります。
所有者票	1		お客様の情報を当社にお知らせ頂くための書面です。

工事編

据付け

据付け場所の選定

1. 効果的に使用するために

●冷たい外気に接する窓ぎわや、壁側に据付けると、暖房効果が上がります。
●ストーブ前方に障害物があると、部屋を均一に暖められない原因になります。

2. 電気配線

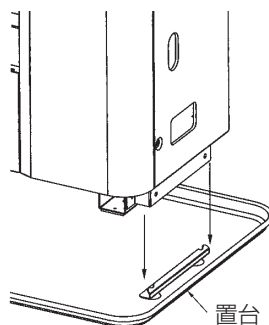
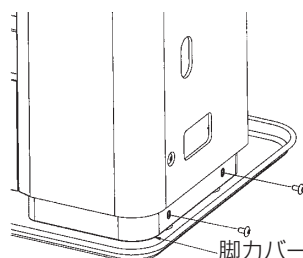
電源は一般家庭用 100 ボルトです。必ず専用コンセントを使用してください。
電源コードが排気筒など高温部に触れないように注意してください。

据付け方法

1. 設置場所の確認

●水平で丈夫な床面に設置してください。
水平でないと不完全燃焼したり、点火しないことがあります。

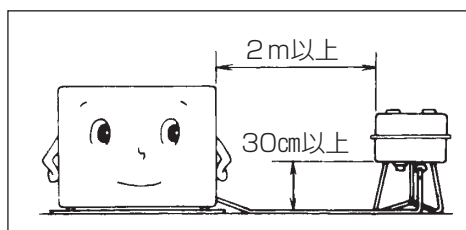
2. 置台の取付け

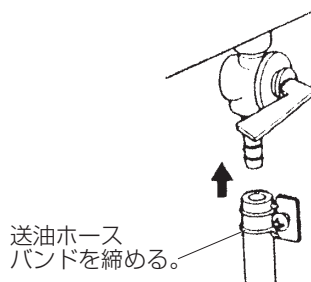
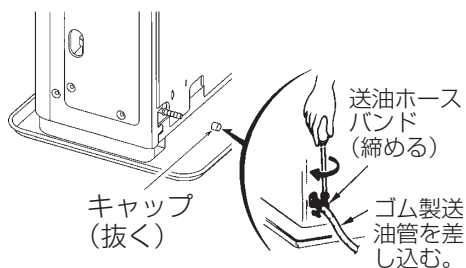
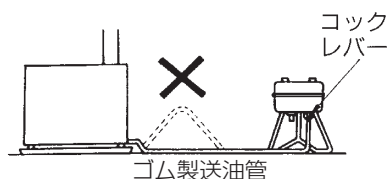
①置台金具に製品を差し込みます。

②脚カバーをねじ 2 本(左右)で固定します。

3. 油タンク（別販品）の組立てと据付け

● 組立て
添付の組立方法に従ってください。

● 据付け場所
床置式の油タンクはたたみやじゅうたんなどの上に据付けないでください。

● 器具との距離
油タンクはストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は２ｍ以上離してください。
送油管の長さがたりない場合は、規格にあったゴム製送油管を別にご購入ください。
ゴム製送油管以外（ビニールホースなど）は使用しないでください。

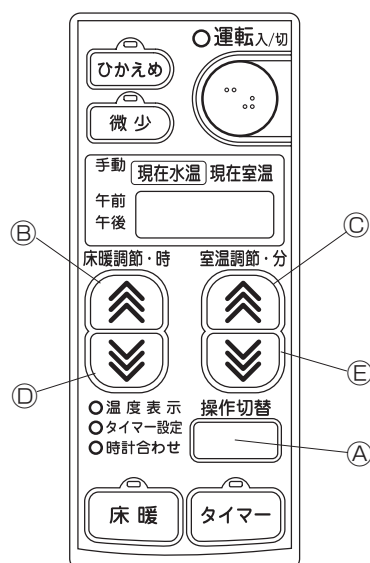
● 器具との落差
油タンクは、油タンクの油面がストーブ設置床面より30㎝以上２ｍ以内の高さになるように据付けてください。

4. ゴム製送油管の取付け方

①ゴム製送油管を油タンクの送油コックの接続部に十分差込んでホースバンドで固く締付けてください。

②本体の接続部に取付けてあるキャップを外し、ゴム製送油管を十分差込んでホースバンドで固く締付けてください。

③ゴム製送油管の途中が油タンクの送油コック部より高くならないようにしてください。ゴム製送油管の空気づまりで燃料が定油面器に流出しないことがあります。このようなときには油タンクを持ち上げてみるとか、ゴム製送油管を振ってみるとかしてください。

高地または延長給排気筒で使用の場合の調節

標高が 400m 未満で標準設置（本体附属品だけでの設置）の場合は、この調節は不要です。それ以外では、下記の調節を必ず行ってください。

- 電源プラグをコンセント（AC100V）に差し込んでください。
- 据付場所の標高に合わせた高地設定と給排気延長条件に合わせた延長設定を次の方法で合わせてください。

①操作切替スイッチⒶを押したままⒷ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓔのスイッチを順次押してください。
　操作スイッチⒶを離してください。

②表示部にH0E0の表示が出ます。
　（H は標高、E は延長を示します）

高地調節

Ⓑの（︽）を押すとH0→1→2→3と上がり、Ⓓの（︾）を押すとH3→2→1→0と下がります。

据付場所の標高	高地設定
0～400m 未満	H 0
～700m	H 1
～900m	H 2
～1200m	H 3

延長調節

Ⓒの（︽）を押すとE0→1→2と上がり、Ⓔの（︾）を押すとE2→1→0と下がります。

給排気延長条件	延長設定
標準設置	E 0
排気延長 2.0m 未満	E 1
2.0～3.0m 以下	E 2

注）排気延長は排気エルボを追加した場合も含まれます。

注）● 工場出荷時の設定は H0E0 です。
　● 高地・延長設定の番号が大きい程、燃焼用送風機の回転数が高くなります。

調節例：標高 500m で給排気延長 0.5m の場合、標高・延長設定はH1E1にセットします。

③操作切替スイッチⒶを再度押すと調節完了です。
　調節が判らなくなった場合、再度電源プラグをコンセントに入れ直し最初から行ってください。

④燃焼の確認：
　点火、Lo 燃焼、Hi 燃焼、消火、再点火を行い異常が無い事を確認してください。
　上記設定は目安です。下記の現象の場合は再度空気量調節を行ってください。
　着火遅れが確認された場合、高地または延長設定のいずれかを 1 設定下げます。（例：H3→2）
　Hi 燃焼時イエローチップが確認された場合、高地または延長設定のいずれかを 1 設定上げます。（例：E1→2）

工事編

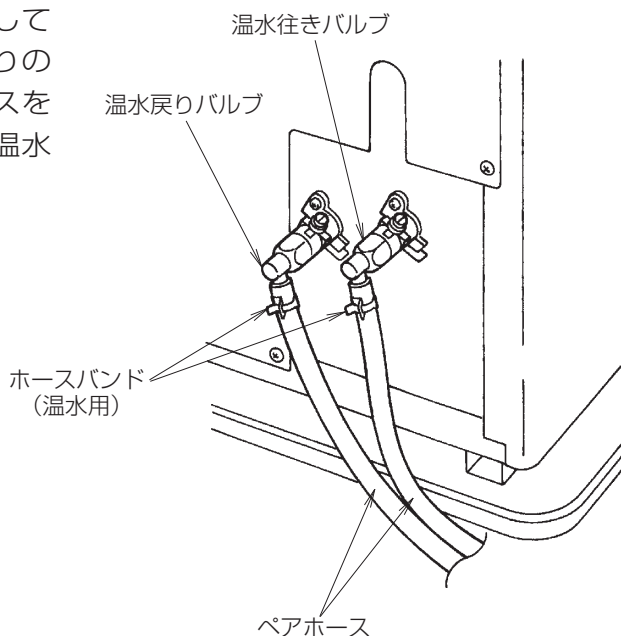
床パネルの接続

パネルの組立

- パネルはサンポット純正のパネルを使用してください。
- 床パネルの設置は床パネルに同梱されている取扱説明書をお読みください。
- 2回路でご使用の場合は別売部品のヘッダーを使用してください。ヘッダーの取付けはヘッダーに同梱されている取扱説明書をお読みください。
- 住宅またはパネルの大きさによっては、結露水が置台に漏れ出すことがありますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

ペアホースの接続

- 配管の長さや美観を考慮して本体裏面の温水往き、戻りのバルブに附属のペアホースを接続してホースバンド（温水用）で固定してください。

工事編

背面カバーの取付け

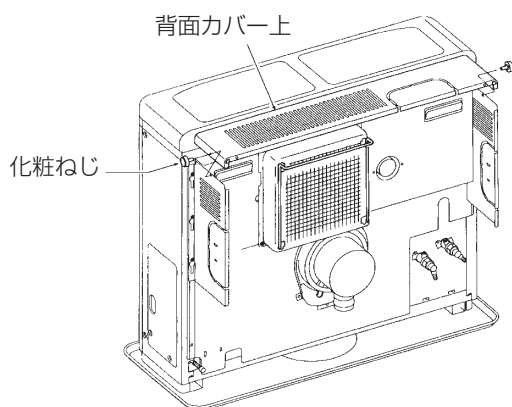
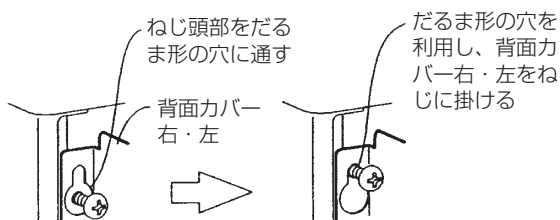
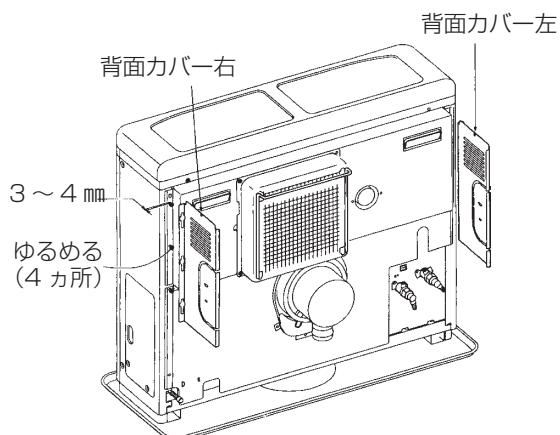
背面カバーの取付方法

● 背面カバーをストーブ本体へ取付ける際はストーブ本体裏板を固定しているねじ６本と附属の化粧ねじ２本を使用します。

⑴ ストーブ本体裏板を固定しているねじ６本を緩め、ねじ頭部とストーブ本体裏板に３～４㎜のすき間をあけてください。

⑵ 背面カバー右・左を⑴で緩めたねじにひっ掛けてください。

⑶ 緩めたねじ６本を締め付け、背面カバー右・左をストーブ本体に固定してください。

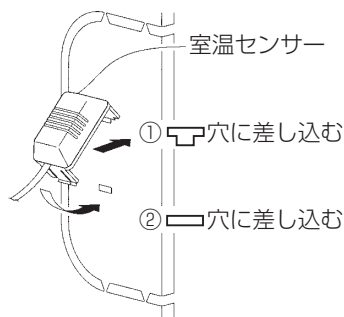
⑷ 背面カバー上を化粧ねじ２本で背面カバー右・左に固定してください。

室温センサーの取付け

製品背面にある室温センサーの取付けを行ってください。
背面カバーをご使用になる場合と、ご使用にならない場合で室温センサーの取付け位置が異なりますので、次の要領で取付けてください。

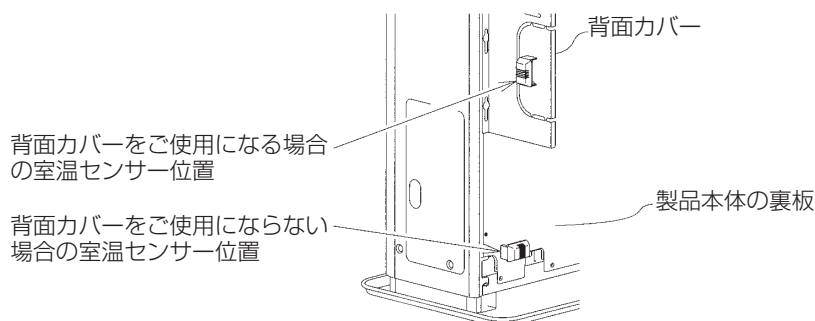
工事編

●背面カバーをご使用になる場合

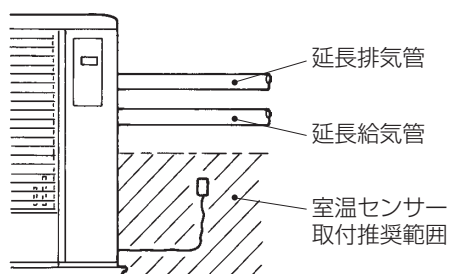
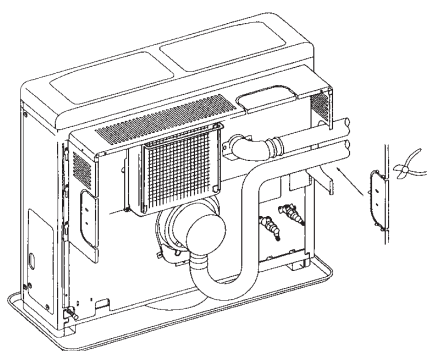
⑴ 背面カバー(右)に取付けてください。
⑵ 取付方法は、まず室温センサーのコードを伸ばしてください。
⑶ 背面カバー(右)の ┳ 形の穴に室温センサーを差し込んだあと、反対側のつめを ▭ 形の穴に差し込んでください。

室温センサー
① ┳ 穴に差し込む
② ▭ 穴に差し込む

●背面カバーをご使用にならない場合

⑴ 製品本体の裏板の穴に取付けてください。
⑵ 取付方法は背面カバーをご使用になる場合と同様です。

※快適な室温制御を行うため、室温センサーの取付けは必ず行ってください。
※室温センサーは直射日光、ストーブのふく射、すきま風のあたる位置では正しく動作しません。
※室温センサーのコードが排気管にふれないようにしてください。

延長配管をする場合の取付方法

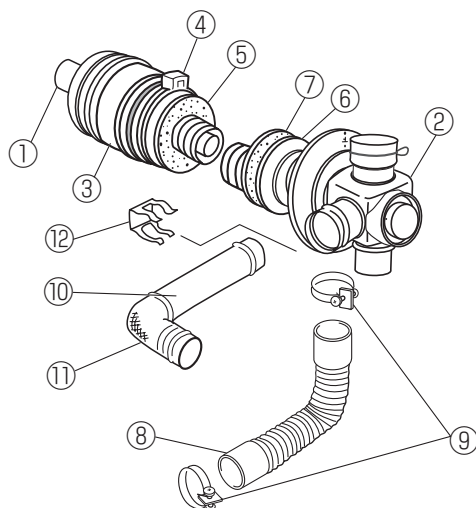
⑴ 背面カバー左・右・上いずれかの配管用穴を、ニッパーで切り取り穴を開けてください。
⑵ 開けた穴に延長配管を通してください。
※配管を通す際は、ニッパーの切り残しに注意して作業してください。
※背面カバー(右)の配管用穴を使用する場合には、室温センサーを製品後方の壁などに移動してください。室温センサーは附属のねじで固定してください。

工事編

給排気筒の取付け

使用する給排気筒

給排気筒は、ストーブに取付けてあるものか、または当社指定のものを使用してください。

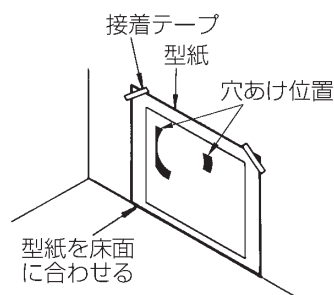
● 薄型給排気筒セット(附属品)

①	給排気筒 A
②	給排気筒 B
③	スペーサー
④	室外フランジ
⑤	外パッキン
⑥	室内フランジ
⑦	内パッキン
⑧	給気ホース
⑨	ホースバンド(2 個)
⑩	L 形排気継手
⑪	断熱カバー
⑫	抜け止め金具

給排気筒の工事方法とその注意

1. 給排気筒の工事方法とその注意

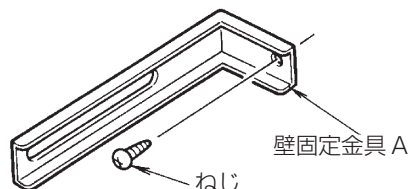
①附属の設置説明書の型紙をあてて、穴あけ位置及び壁固定金具取付位置へキリ等で印を付ける。

②印を付けた位置に直径7～8㎝の穴をあける。

- 木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りをしてある所に給排気筒を通す時は、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
- 壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。

③印を付けた位置に壁固定金具 A をねじで固定する。

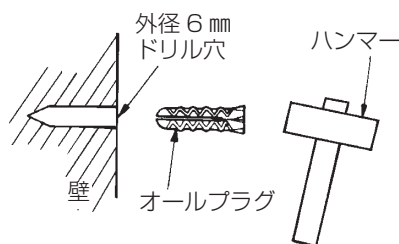
- 壁の材質により下記のように取り付けてください。

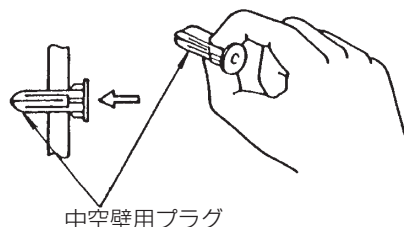
木または厚い合板の壁

木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属の壁固定金具を用いて、ねじで直接固定してください。

モルタルまたはコンクリートの壁

モルタルまたはコンクリートの壁に固定する場合は、市販のオールプラグを使用してください。

ねじを締める位置に外径 6 ㎜のドリルで壁に穴をあけオールプラグをハンマーで壁面からでないように打ち込みます。

オールプラグを打ち込んだ後、附属の壁固定金具を用いて、ねじで固定してください。

石膏ボードまたは薄い合板の壁

石膏ボードまたは薄い合板などの中空壁に固定する場合は中空壁用プラグ（市販品）を使用してください。

ねじを締める位置に中空壁用プラグで指定された穴をあけプラグを差し込んでください。
入りにくい場合は、ハンマーで軽くたたいて壁面からでないように打ち込みます。
中空壁用プラグを差し込んだあと、附属の壁固定金具を用いてねじで固定してください。

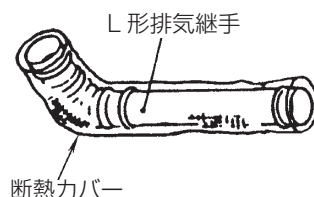
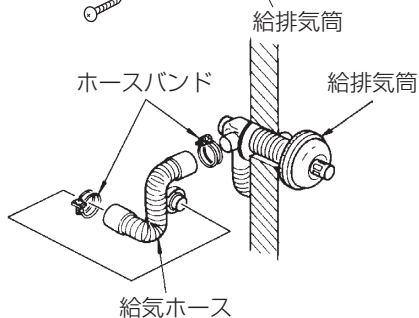
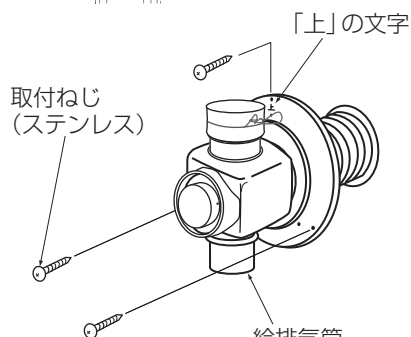
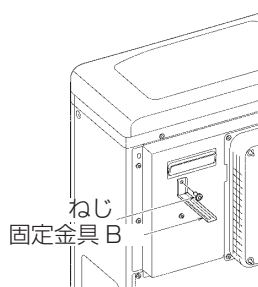
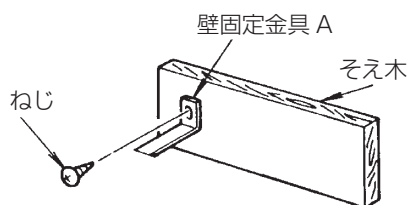
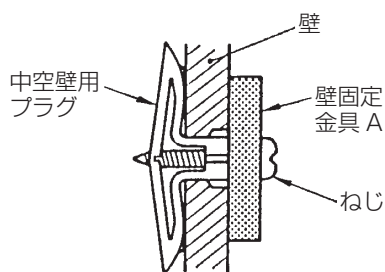
土壁、しっくい壁

土壁またはしっくい壁に固定する場合は、壁にそえ木をして、ねじで直接附属の壁固定金具をそえ木に固定してください。

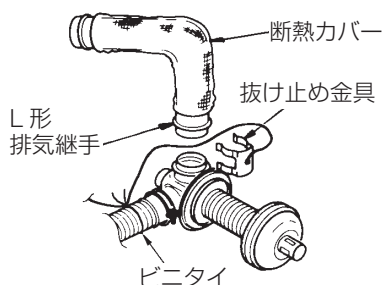
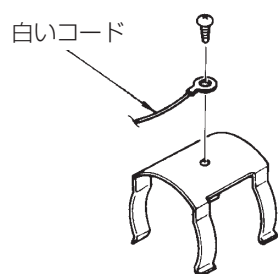
④本体裏側のねじを外し壁固定金具 B をねじで固定する。

⑤壁穴に給排気筒 B を差し込み、「上」の文字が上になるようにして、3 本のねじで壁に固定する。

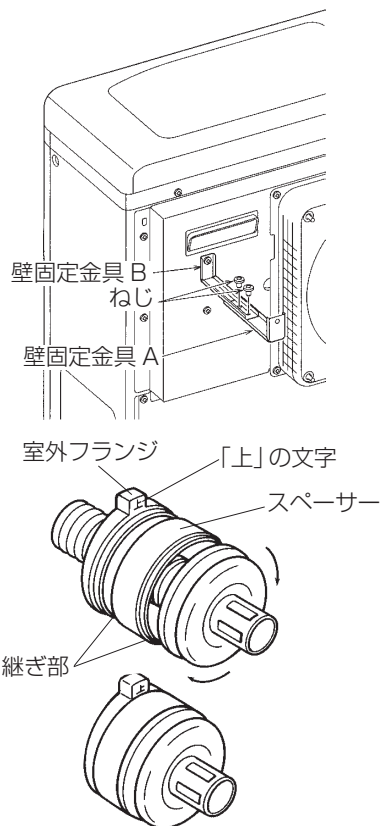
⑥給気ホースの一方を本体の給気口に(あらかじめ本体に取付けてあります)、もう一方を給排気筒の給気口に接続し、ホースバンドで締付ける。

⑦ L 形排気継手に断熱カバーをかぶせる。

⑧本体背面についている白いコード（排気筒外れ検知用）の先端を一番短かいねじで附属の抜け止め金具に固定する。
誤作動を防止するため、しっかりと締付けてください。

⑨排気筒外れ検知用の白いコードは、**電源コードをたばねているビニタイで給気ホースに固定してください。**

⑩本体をずらしながら給排気筒の排気口にL形排気継手を接続し、**抜け止め金具を差し込む。**

（注意）
- **必ず、断熱カバーの下に抜け止め金具を取り付けてください。**
- **排気筒外れ検知用のコードがL形排気継手に触れないようにしてください。**

⑪壁固定金具Aと壁固定金具Bを2本のねじ（ボルト）で固定する。

⑫屋外からスペーサー・室外フランジ（外パッキン含む）をはさむように給排気筒Aを差し込み、外壁に固定する。
固定した時「上」の文字が上になるようにする。また、スペーサーと室外フランジの継ぎ部にすき間や段差が無いようにする。
注）附属の外パッキンで壁との密着が完全でなく、雨水が壁内へ入るおそれのある場合は市販のシール剤（シリコン系は禁止）で室外フランジと壁との間をシールしてください。

※壁厚が11～14㎝までは、スペーサーを使用してください。
※壁厚が14～26㎝の場合は、スペーサーは使用しません。

工事編

⑬次の 3 点を確認する。

⑴ 給排気筒 A を屋外から軽く引張り、抜けないこと。

⑵ 給排気筒先端へ向って下がり勾配になっていること。

⑶ 試運転を行い、異常がないこと。

■給気筒の角度変更

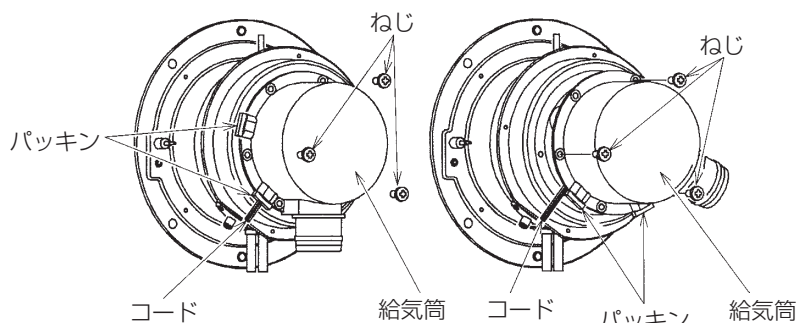
ねじ 3 本で給気筒の角度が変えられます。

角度を変更する場合は下記に注意しておこなってください。

⑴ 給気筒にコードがかまれないように注意してください。

⑵ 給気筒とパッキンに隙間がないことを確認してください。

⑶ 取り外したねじを必ず使用してください。

10㎜以上の長いねじを使用するとねじがファンに当りファンが回らなくなります。

延長セットを使用した取付けかた

延長セットを使用したときは、51 ページの高地または延長給排気筒で使用の場合の調節に従って空気量調整を行ってください。

基本セットで取付けできない場合は、延長取付けもできます。

以下の項目を確認の上、延長工事を行ってください。

⑴ 給排気筒取付け位置は床面より上のこと。

⑵ 曲がり数が排気・給気それぞれ 3 ヶ所以下のこと（本体出口の曲がりは含み、給排気筒内部の曲がりは含まない)。

延長長さが排気・給気それぞれ 3m 以下のこと。

⑶ 延長時の排気・給気のそれぞれの曲がり数、長さは同じであること。

⑷ 排気筒が床下や天井裏を通らないこと。

試運転

試運転は、使用者とご一緒に必ず行ってください。
試運転の方法については、取扱編の40ページを参照してください。

廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。
リサイクルの支障となります。

サンポット株式会社

お客様相談窓口〔受付時間：平日午前9時から午後5時まで〕
☎0198-37-1177　FAX.0198-37-1192

事業所	〒	住所	TEL	FAX
札幌支店	〒065-0042	札幌市東区本町2条10丁目1番25号	☎011-785-1211	FAX.011-782-8262
釧路営業所	〒085-0051	釧路市光陽町8番1号	☎0154-22-5821	FAX.0154-32-2289
帯広営業所	〒080-0801	帯広市東1条南25丁目12番地	☎0155-22-1335	FAX.0155-28-2266
旭川営業所	〒078-8237	旭川市豊岡7条6丁目6番10号	☎0166-34-8636	FAX.0166-39-2157
函館営業所	〒041-0851	函館市本通4丁目17番25号	☎0138-53-2583	FAX.0138-33-2180
仙台営業所	〒983-0034	仙台市宮城野区扇町4丁目2番40号	☎022-236-3444	FAX.022-238-9416
郡山営業所	〒963-8041	郡山市富田町字音路1番地109	☎024-962-9288	FAX.024-962-9266
青森営業所	〒030-0131	青森市問屋町2丁目18番18号	☎017-738-4141	FAX.017-738-5354
秋田営業所	〒010-0914	秋田市保戸野千代田町15番17号	☎018-824-3421	FAX.018-824-3423
岩手営業所	〒025-0301	花巻市北湯口第2地割1番地26	☎0198-37-1138	FAX.0198-37-1188
首都圏営業所	〒352-0001	新座市東北2丁目24番3号	☎048-471-8420	FAX.048-470-1141
信越営業所	〒381-0031	長野市大字西尾張部1114番地5	☎026-252-6161	FAX.026-252-6162
北関東営業所	〒321-0942	宇都宮市峰2丁目5番9号	☎028-635-7755	FAX.028-651-2255
大阪営業所	〒564-0053	吹田市江の木町18-27	☎06-6337-3211	FAX.06-6337-3212
富山営業所	〒939-8212	富山市掛尾町479番地4	☎076-420-2677	FAX.076-420-2238

サンポットエンジニアリング株式会社

事業所	〒	住所	TEL	FAX
サービス部	〒065-0042	札幌市東区本町2条10丁目1番25号	☎011-785-1201	FAX.011-780-2338
仙台サービスセンター	〒983-0034	仙台市宮城野区扇町4丁目2番40号	☎022-232-1479	FAX.022-238-9843

サンポットホームページ　http://www.sunpot.co.jp/

事業所名・住所・電話番号は変更することがあります。あらかじめ了承願います。

愛情点検

●長年ご使用の石油暖房機の点検をぜひ！

ご使用の際、こんな症状はありませんか？	●油漏れがある。 ●排ガスのにおいがしたり、目がチカチカする。 ●運転中異常な音がする。 ●黒煙を出して燃える。 ●その他の異常や故障がある。	➡	ご使用中止	このような場合、事故防止のため使用をせずスイッチを切りコンセントから差し込みプラグを抜いて、必ずお求めの販売店または石油機器技術管理士や点検整備士に、点検修理をご相談ください。ご自分での修理は危険な場合がありますから、絶対ならさないでください。

ご購入(据付)年月日	年　　月　　日
ご購入店名	 TEL.

お客様へ……おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。

再生紙使用

32400031300
9638